

OB 通信

# 鳳 翩

= 2023年 8月号 =



【山口パークロード】(S52 経済 古谷真之助 作)

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

鳳翩会

もくじ

				ページ
1	会長挨拶		鳳翔会会長 田村 伊正	1
2	2022 年度事業報告と 2023 年度事業計画		副会長 三國 彰	2
3	2023 年度総会(関西)開催のご案内		関西支部長 池田 純	3
4	支部報告			
	東京支部 活動報告		東京支部 事務局 秋山 高弘	4
	九州支部 活動報告		九州支部 支部長 龍 純二	7
	山口支部 活動報告		山口支部 支部長 坂田 信一	9
5	同窓会だより			
	古都奈良散策(5月25日~26日)	S45 経済	九州支部 武富(伊藤)敏夫	10
	昭和 57 年卒部 OBOG 会	S57 工	関西支部 丸山 庄治	12
6	エッセイ			
	花の山脈	S45 経済	九州支部 武富(伊藤)敏夫	14
	ワングル夫婦の還暦後の会話	S58 経済	東京支部 泉谷幸児・恵	16
	山の花を訪ねて	S47 文理	山口支部 野村(内田)英明	17
	蒙古山之碑	S45 経済	九州支部 武富(伊藤)敏夫	20
	2つの花「水芭蕉」と「エーデルワイス」	S41 文理	九州支部 加藤 征治	22
	日本一のシャクヤク 十種ヶ峰 秘密の花園	S47	山口支部 山本太起子(S47 山本充二の妻)	23
	一ノ坂銀山と幕末長州藩の軍資金との関連性	S52 経済	山口支部 古谷 慎之介	26
7	近況報告			
	秋山先輩との思い出	S45 経済	九州支部 武富(伊藤)敏夫	30
	秋山邦雄先輩の思い出	S53 経済	東京支部 秋山 高弘	32
	2023 年 4 月 5 日(水)矢切の渡しと柴又散策記	S47 文理	東京支部 恵谷 浩	33
	ガダルカナルへの旅	S50 経済	東京支部 塩塚 保	34
	65 回目の公演活動	S52 経済	山口支部 古谷 慎之介	35
	水縄山地と黒髪山	S50 文理	九州支部 本園 明信	36
	富山	S47 文理	東京支部 恵谷 浩	37
	最近中国事情 中国海南島に旅行して	S47 工	東京支部 福永俊美	38
	仲間とつながる喜び	S60 農	山口支部 斎藤 昌彦	40
	日本初の大磯海水浴場と湘南平登頂	S47 文理	東京支部 恵谷 浩	42
	この一年余り	S49 工	東京支部 松永 烈	43
	新宿 香西ワインと料理のタベ	S51 工	東京支部 小林照明	44
8	現役報告	経済学部 4 年	事務局長 坂本 新	47
9	OBの皆さまへのお願い		副会長 三國 彰	48
10	2023 年度本部・支部役員連絡先/編集後記		副会長 田原 宏	49

## 1. 会長挨拶

鳳翔会 会長 田村 伊正

今年も想定外の豪雨災害が全国で起きていますが、鳳翔会の皆様にお変わりなくご健勝のことと存じます。また、常日頃より鳳翔会の運営に関しまして温かいご理解とご支援を頂き賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年の総会は新型コロナの感染拡大が懸念される中、九州支部の皆様のご努力とご腐心により、3年ぶりに一堂に会して懇親を深めることが出来ました。対面で再開できた喜びは一入で、OB会の歴史を繋ぐことが出来たことを安堵しました。

現役クラブ員も大学当局から活動許可が漸く発出され、海浜合宿、夏合宿を再開しておりますが、学部生に経験者がいないことから、院生からのアドバイスと記録に頼る手探りの状況だったようです。OBの助言も役立っていればと思うところです。

長期に渡る新型コロナの感染は重大な社会変容をもたらしましたが、鳳翔会の活動意義さえも問われかねない状況でした。危機感からWEBを活用した本部支部役員の連帯意識の醸成や支部活動の活性化の工夫が生まれました。これも先輩諸氏が培われた風土の賜物と感謝資するところです。各支部活動にも新たなツールを活用して懇親を深めて頂ければと願っております。

今年は新型コロナが5類感染症に仕分けされ、まさにWith コロナの中で個々の判断と対応に委ねられていますが、関西支部の皆様のご支援を受け総会を開催できる運びとなりました。当然、感染予防の対策を講じながらの運営にご腐心頂いており、関西支部の皆様には改めて感謝申し上げますと共に、会員の皆様には是非ご参加いただけますようお願い致します。

今年の夏も猛暑日が続き熱中症警報も日常的に発せられています。会員の皆様には健康に気を付けて頂き、夏山を楽しみながら元気に過ごされますようお願い申し上げます。

最後に、山口大学ワンダーフォーゲル部の創設から今日のOB会の発展に尽くしてこられ、私どもが敬愛してやまない秋山邦夫先輩の訃報に接し、心よりご冥福を申し上げます。

## 2. 2022年度事業報告と2023年度事業計画

副会長 三國 彰

### 【2022年度事業報告】

2022年度(2022年1月1日~2022年12月31日)の事業報告と、併せて会計則第3章の規定に基づき、2023年1月1日から6月までの事業について報告します。新型コロナ感染症対策が必要となり、ほとんどの事業が中止となっていましたが規制緩和により、活動も再開される方向となりました。2020年、2021年と延期になっていたOB総会も九州支部の皆様のご用意周到な準備のおかげで3年ぶりに無事開催されました。またOB通信も3年ぶりに2回発行することができました。

#### (1)山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

- 1)卒部生歓送会への記念品のみとし、激励訪問は中止
- 2)現役支援金の授与

#### (2)役員会等の開催

- 1)役員会2回(1月29日、6月6日Web会議)
- 2)本部役員・支部長会議(6月19日:Web会議) 会誌、総会についての審議
- 3)2021年度会計監査2022年1月29日監査役:斎藤昌彦、平野展康

### (3) 2022年総会の実施

#### 1) 2022年総会を九州支部で開催

日時 2022年10月22日(土)～23日(日)

場所 湯布院倶楽部(大分県由布市湯布院町川上2952-1)

参加人数 総会57名、懇親会57名

#### 2) 総会における支援

総会支援金の進呈、現役への総会参加要請および参加支援

### (4) 「OB通信(会誌)」の発行

1) 8月号の発刊

2) 12月号の発刊

### (5) 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

現役の活動も3年ぶりに海浜合宿と夏合宿の開催が決定しました。少しずつではありますがコロナウイルス蔓延前のような活動が行える状況になってきています。活発化されてきた現役の部活支援を行いました。今後も支部活動等で交友を深めていく予定です。

1) 海浜合宿の支援(支援金の授与; 7月9・10日に実施)

## 【2023年度事業計画】

新型コロナ感染症対策規制緩和により、活動も再開される方向となりました。まだ予断は許されない状況ですが令和5年度も総会開催予定であり、総会支援を行う予定です。またOB通信も2回発送予定です。現役学生の活動も昨年より活発化してきており、引き続き積極的な支援を行う予定です。

### ① 2023年度 上期事業経緯報告

#### (1) 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

1) 卒部生歓送会への記念品のみとし、激励訪問は中止

2) 現役支援金の授与

#### (2) 役員会等の開催

1) 2022年度会計監査 2023年1月28日に実施 監査役: 斎藤昌彦、平野展康

2) 本部役員・支部長会議(6月30日: Web会議) 会誌、総会についての審議

#### (3) 2023年総会の実施決定

2023年総会を関西支部で開催予定(開催日時: 10月21~22日、開催場所: 湯の花温泉 溪山閣)

### ② 2023年度 下期の事業予定

#### (1) 総会における支援

1) 総会支援金の進呈予定

2) 現役への総会参加要請および参加支援予定

#### (2) 「OB通信(会誌)」の発行

1) 8月号の発刊(8月12日発行予定)

2) 12月号の発刊

#### (3) 山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

本年度現役部員の入部は14名で部員45名となり、学生の活動も活発化してきています。合宿他の活動に加え、8月には海浜合宿、3年ぶりの中四合ワも開催予定とのことです。引き続き学生への支援を行う予定にしています。

1) 海浜合宿の支援(海浜合宿支援金の授与; 合宿は8月中旬に実施予定)

### 3. 2023 年度総会（関西）開催のご案内

関西支部長 池田 純

前年度の九州総会でご連絡しましたように今年は関西での開催になります。九州総会の懇親会でそれとなく開催場所のリクエスト聞きましたがいやはり京都、奈良の有名観光地を推す声が多かったと感じました。そこで今回は京都で開催することにしました。過去の京都での開催場所は東側地区でしたが今回は京都の北西の亀岡湯の花温泉で開催します。ここは京都の奥座敷と呼ばれ華やかさはありませんが嵯峨野観光の拠点としてそれなりに有名なおところです。多数のご参加お待ちしております。

※出欠連絡 同封のハガキで9月15日（金）まで投函くださるようお願いいたします。

記

1. 開催日時 2023年 10月21日（土） 22日（日）
2. 開催場所 湯の花温泉 溪山閣  
溪山閣 TEL 0771-22-0250
3. 参加費 18,000円（懇親会のみ 10,000）
4. 当日の流れ 受付開始 15:30～  
総会 17:00～  
写真撮影 総会終了後  
懇親会 19:00～

#### 5. 会場へのアクセス

京都駅から JR 嵯峨野線（山陰線）約20分 亀岡駅下車  
南口 交番付近より送迎バスで10分くらい  
送迎バス 出発時間 14:40 15:40 16:40  
南口は改札出て右側です。サッカー会場とは逆になります。

#### 6. 散策・ハイキングのご案内

- 1) 21日はイベントありませんが、当地は嵯峨野観光拠点で早めに来られて個人で散策されることお勧めします。

観光スポット：嵯峨野、嵐山、トロッコ嵯峨野、いずれも嵯峨嵐山駅が便利  
保津川下り、馬堀駅

溪山閣周辺では、コスモス夢畑、穴太寺（あなおじ）があります。

- 2) 22日にちかくの山（半国山）に登ります。簡単に行程を紹介します。

8:15ホテル出発（バス） →8:30千ヶ畑登山口→10:00頂上→12:00音羽溪谷 →12:20下山口→赤熊バス停12:24（バス）→亀岡駅12:59（バス）

※昼食時間までに下山する予定ですが行動食等をご準備ください。

当日コンビニで買い物準備される方はスタッフに声掛けください

不要な荷物は下山口まで運びます。

当地区の里山はどこもそうですが、最近の大雨の影響で登山道が荒れ気味です。足元しっかりと願います。尚、下山道が沢筋に当たる為、雨天の場合は取り止めます。

半国山は、亀岡市にある里山で別名丹波富士 形の良い山だそうです。標高774m鳳凰山734mより高いですが登山口のバス停の標高高く掲載のコースタイムで頂上に到達です。晴れていれば展望はよく下見では比叡山、比良山系はもとより大阪市の高層ビル群も展望できました。



## 4. 支部報告

東京支部活動報告

東京支部 事務局 秋山高弘

2月14日 幹部会

虎ノ門升本に城戸・高田・松永・秋山が集まり、一年の活動計画内容を打ち合わせ。来年秋に東京支部がOB 総会の幹事となることから、奥多摩を候補地として、この辺りを中心に会場を探すとともに、今後の山登りやハイキングを行うことを決定。第一弾として、御岳山に登ることにした。

4月29日 御岳山(929m) 登山 (17名)

御嶽駅に集合し、バスにて登山口に向かう。結構混雑しており臨時バスだった。登山口で、歩いて登る組とケーブルカーで登る組に分かれ、山頂の御嶽神社を目指す。山頂にて記念撮影後、昼食をとるために長尾平へ。眺めの良い場所を見つけお弁当タイム。しばらくして恵谷さんがいないことに気が付く。すぐに電話するも電波が通じない。結局下山後に連絡が取れたが、長尾平に行くときに置いてきぼりにしてしまったらしい。恵谷さんには申し訳ないことをしてしまった。下山もケーブル組、徒歩での下山組、さらには別のルートに行く健脚組とに別れ、御嶽駅にて再集合、そこから眺めの良い渓谷沿いの道を歩き、清流ガーデン澤乃井へ。ここは清酒澤乃井を作っている小澤酒造が営業していて、皆好きなお酒・ビールを買って乾杯打ち上げ。しばらくして健脚組もガーデン到着、帰りの電車の時間も忘れ、皆で気持ちよく酔いました。

6月7日 総会会場下見

平日でしたが、城戸・高田・秋山の3人で奥多摩地区にある総会候補ホテルを見学。少し気が早いのですが、今は1年前から宿泊予約が入るシステムが多いので、その前にホテルを借切りにできないか相談しました。帰りは炎天下3駅分のロードを敢行、おかげで青梅で美味しいクラフトビールにありつけました。

7月15日 暑気払い

新宿ライオンにて暑気払いを行いました。21名が集まり暑さを吹き飛ばすべく大いに盛り上がりました。塩塚さん、藤川さんが初参加。仲間が増えることはうれしいことです。



(御嶽神社にて記念撮影)



(清流ガーデン 澤乃井園にて)



(暑気払い=新宿ライオンにて)

OB 通信 12 月号以降の活動報告をいたします。

12月3日(土) OB 総会打ち上げ兼忘年会 場所：博多つつじ庵  
出席者13名：永沼、武富、本園、木下、山本、殿村、弟子丸、笹田、堀夫妻、前田、天野、龍

湯布院のOB 総会の打ち上げ兼忘年会を開きました。支部の皆さんの協力が無事に終了できたことを感謝しています。先月に福岡に転居された弟子丸さんが参加されました。また、久しぶりに殿村さんが参加。



2023年

1月28日(土) オンラインミーティング

参加者5名：武富、木下、山本、堀、龍

議題：近況報告、2023年度活動予定について、その他  
新年会オンラインミーティングを行いました。今年の活動予定を話し合いました。

3月19日(日) 日帰り山行：十坊山(535m)  
参加者4名：桑江、堀、前田、龍

今年初めての山は十坊山でした。2004年の福岡OB総会のとき登った山で、懐かしい思い出の山。「まむしの湯」温泉南側の登山者向け駐車場がいっぱいになるくらいの人気の山になっています。



4月22日(土) 日帰り山行：福智山(900m)  
参加者4名：前原、堀、前田、龍

北九州、筑豊の名峰、福智山へ行きました。鱒淵ダムから登りはケヤキ谷コース、下りは豊前越えから滝のほうへ、滝へは下りず巻き道のほうから下りました。下りきったところに休憩小屋があって、小屋のおやじさんからお茶の接待を受けました。長いコースでしたが、新緑のなか良く歩きました。



5月20日(土) 日帰り山行：高地山(419m)・叶嶽(341m)  
参加者6名：岩本、桑江、堀夫妻、前田、龍

今宿の野外活動センター駐車場から吉野谷コース高地山に登り、帰りに叶嶽に登り九電作業道を下りてきました。午前中は曇りであいにく沖ノ島は見えませんでした。気持ちの良い縦走路でした。下りの九電作業道は急な階段が続く道で、久々にひざの痛みがでました。

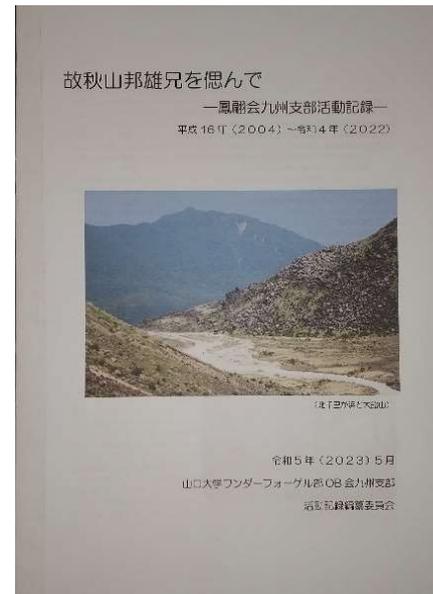


6月10日(土) 懇親会 場所：大名つつじ庵  
参加者11名：永沼、武富、本園、岩本、木下、山本、桑江、権藤、堀、富田、龍

2月以来取り組んできた「故秋山邦雄兄を偲んで-鳳凰会九州支部活動記録-」が完成したので、その配布を兼ねて懇親会を開きました。懇親会に出席できなかった支部の方には後日郵送しました。秋山家には、永沼さんと私で訪問しご仏前にお供えさせていただきました。奥様とご長男が対応され、大変喜んでいただきました。

### 「故秋山邦雄兄を偲んで-鳳凰会九州支部活動記録-」編纂について

昨年12月14日秋山邦雄さんが78歳の生涯を終えられました。故秋山さんは山口大学ワンダーフォーゲル部OB会や九州支部の発展に大変尽力されました。訃報を受けて、永沼さんより夏頃までに、九州支部の活動記録をまとめ、追悼文を含めた機関誌を作り、秋山家に届けたいとの提案がありました。支部の賛同により2月以来編纂に取り組んできました。武富さんの周到な活動記録素案作成により5月中に完成することができました。印刷は永沼さんに、製本は山本さんにしていただきました。また7名の方に追悼文を書いていただきました。6名の編纂委員の方にご協力いただきました。支部の皆さんのご協力により完成できたことを感謝しています。鳳凰会ホームページに掲載してもらったので、他支部の方にも見ていただけたらと思います。



### 九州支部活動記録編纂のためのオンラインミーティング

- 2月25日(土) 参加者6名：永沼、武富、木下、権藤、堀、龍
- 3月4日(土) 参加者4名：木下、山本、堀、龍
- 3月11日(土) 参加者8名：武富、木下、山本、権藤、堀、前田、天野、龍
- 4月1日(土) 参加者2名：木下、龍
- 4月8日(土) 参加者6名：木下、山本、権藤、堀、天野、龍
- 4月15日(土) 参加者6名：永沼、武富、山本、前田、天野、龍
- 4月23日(日) 参加者4名：山本、権藤、堀、龍
- 4月29日(土) 参加者6名：永沼、木下、山本、堀、天野、龍
- 5月6日(土) 参加者5名：永沼、木下、山本、堀、龍

2023年4月16日 山口市佐山で筍掘りイベント

出席者 5名 三國 (S55 工)、坂田 (S57 理)、平野 (S59 経)、川地夫妻 (H26 農)  
 場所 山口市 佐山 川瀬眞孝旧宅跡の竹林

4月中旬～下旬、私(坂田)の親戚が所有する竹林にたくさんの筍が生えます。毎年、収穫せずに倒すだけになる筍が多く発生します。そうなるならワングルの仲間で取らせてもらいたいとお願いし、今回のイベントを実現することができました。

筍掘をした竹林は、山口市の佐山にある川瀬眞孝旧宅跡地内にあります。川瀬眞孝は来島又兵衛の指揮権を引き継いで遊撃隊総督となり幕末に活躍し、明治には侍従長、枢密顧問官となった人物です。住宅はもうありませんが、家の石垣が残っていて、そこには観光案内の掲示板が立っています。



さて、当日13時に川瀬眞孝旧宅跡の敷地に集まり、石垣の上で記念撮影をして、山側の竹林に入って筍掘をしました。1時間半くらいで十分な量を掘り、竹林から運び出し収穫物を並べて記念撮影をしました。記念撮影中、大雨が降り出したので、急遽敷地内の家に退避し、みんなでお茶をして過ごしました。雨を見計らって、収穫物を駐車場に運び分配していると、今度は、雷交じりの大雨になり、慌てて分配をすませ、車に乗り込み解散しました。私は帰宅しながら、若い二人は、あたらした際にたくさんの筍を持って帰ってもらったのは良いけど、処理するのは大変だろうなあと思いながら、運転した次第です。来年も筍のシーズンになれば、開催するつもりです。

今回の活動は1件と少なくなっていました。もっと活動する予定ではありましたが、私(坂田)の両親が立て続けになくなり、葬儀やその後の手続きなどで、ワングルの活動にパワーを注ぐ余裕がありませんでした。時間の経過によって、余裕ができてつつありますので、これから頑張りたいと思っています。



## 5. 同期会だより

古都奈良散策(5月25日～26日)

九州支部 武富(伊藤)敏夫 (S45 経済学部)

中学校の修学旅行(昭和37年)の記念写真を見ると、黒い制服姿(一クラス49名)で鹿と一緒に写っているのが、恐らくこの年の秋ごろ奈良を訪れたのだと思います。今年も同期会開催の時期がやってきましたが、奈良を訪れるのはそれ以来ですから61年振りということになります。

5月25日(木)、参加者8名(乙咩、黒小、河内、妹尾、武富、野村、箱田、藤原)が、近鉄奈良駅の「行基菩薩像」前に三々五々集合し、今年の同期会が始まりました。駅前では修学旅行生や外国人観光客などが多数見受けられ、コロナからやっと解放されたのだと思いました。と言っても私たちが観光客の一人なのです。

早速、駅前の「月日亭」で昼食。ここで食べた柿の葉すしが、帰りのお土産へとつながるのです。その後、県庁前で藤原さんの車に荷物を預けて散策開始です。「興福寺」で、五重塔、中金堂、興善院、三重塔などを拝観した後、県庁前へと向かいます。興福寺入口に戻った付近で、外国人観光客が鹿せんべいを与えようとしていて、鹿から寄りかかられたのでしょ。倒れてしまいましたが、幸いけがはないようでした。興福寺を後にして「東大寺」の南大門、大仏殿へと向かいます。

大仏殿の信号から南大門方面を見ると、大勢の人がこちらの方に戻って来たり、南大門方面に向かったりして、観光客の多さにはびっくりしました。大仏殿への拝観をためらっていた3人でしたが、結局全員で大仏の拝観をすることにしました。大仏殿の中の大仏の大きさと、当時は100mを超す塔が左右に立っていたという模型を見て、そのすごさに圧倒されてしまい、拝観して良かったと思いました。次は「正倉院」ですが、拝観時間を過ぎていて拝観できず、到着予定時間より早いものの宿泊場所へ直行です。

本日の散策コースは、近鉄奈良駅の「行基菩薩像」～「月日亭」(昼食)～「興福寺」(五重塔・中金堂・興善院・三重塔)～「東大寺」(南大門・大仏殿)～「奈良倶楽部」でした。宿泊場所「奈良倶楽部」へは15時16分到着。缶ビールで乾杯し本日の散策は終了です。行動距離は4.5km、行動時間2時間26分、皆さん大変お疲れさまでした。

17時30分より、お隣の「cobachi 庵」で石井絨之料理長による「順風」という料理で懇親会が始まりました。「春鹿」という地酒を楽しみながら、恒例の近況報告や病気自慢?などがあり、大いに盛り上がったことは言うまでもありません。河内さんが「春鹿」の酒瓶のラベルをもらって喜んでいました。



6月4日の読売新聞に「五重塔の美守り伝える」の記事には、「寺院建築の象徴として各地に伝わる五重塔は、歴史とともに日本独特の木造建築の美を伝えてきました。奈良・興福寺の国宝・五重塔が再建以来約600年を経て7月から大規模修理に入る。」と書かれています。

修理の完了は2031年3月予定ですが、当面の間、五重塔は見られなくなってしまうとのことであり、今回、見る事ができて良かったと思えました。

5月26日(金)、豪華な朝食の後、玄関前で集合写真を撮ってもらい、本日の散策の始まりです。昨夜飲んだお酒の影響でしょう、軽い登りの坂道でも歩くのに息が切れます。「正倉院」のそばから二月堂裏参道を抜け、奈良に春を呼ぶお水取りの舞台となる「二月堂」へ向かいました。ここからは市街が一望



することができます。若草山の裾野を通過して「春日大社」へ参拝。参拝も簡単に済ませ「ささやきの小径」を通過して「新薬師寺」へと向かいます。「ささやきの小径」を歩いていると、「春日大社」までの喧騒が嘘のようになくなり、静かな奈良のたたくまいを見せてくれました。

「新薬師寺」から「史跡頭塔」を右手に見て、奈良町界隈にある昼食場所「旬采ひより」を目指して歩きます。途中「奈良高畑郵便局」があり、箱田さんが、千円を入金して恒例の絵のついたスタンプをおしてもらい喜んでいました。昨日おいしくいただいた「春鹿」の醸造元「今西清兵衛商店」

では、皆さんお土産用のお酒と奈良漬を購入していました。

「ならまち」は奈良の旧市街地で、近世以降は奈良を代表する商業地となったところで、今でも酒屋、醤油屋、薬屋などがあり、文化庁の保存建造物に指定されているものも多くあります。昼食場所「旬采ひより」へと曲がる角の「菊岡漢方薬局」のそばには、お店の看板代わりに昔の石柱が立っており、この界隈は町の良さと古さを感じさせてくれるところです。

本日の散策コースは、「奈良倶楽部」～「二月堂」～「春日大社」～「新薬師寺」～「今西清兵衛商店」～「旬采ひより」(昼食)で、11時38分到着し、ここまでの行動距離は5.4km、行動時間2時間34分でした。昼食は野菜尽くしでしたが、朝食が遅かったせいかあまり食欲がありません。

昼食後、「猿沢の池」を回って「東向商店街」を抜け「近鉄奈良駅」へと向かいます。藤原さんが預かった荷物を取りに行く間、皆さん「柿の葉すし本舗たなか」で、お土産用の柿の葉すしを購入しています。



駅前で藤原さんの車から荷物を受け取り、「近鉄奈良駅」で解散し、それぞれ帰宅の途につきました。懇親会の席上で、広島県在住の皆さんから、来年の同期会を受け持っても良いと自主的な申し出があり、参加の皆さんから賛同を得たところです。広島県在住の皆さんよろしくお願いします。

さて、関西地区での同期会は、平成24年の「六甲山、有馬温泉、神戸散策」、令和2年の「姫路城、円教寺、竹田城」と今回で三回目となります。そのたびに藤原さんから事前準備をしていただき、厚くお礼を申し上げます。夕刻LINEで皆さんから安着の連絡が入り、事故もなく今回の同期会の幕が下りました。



(令和5年5月30日作成)

## 昭和57年卒部 OBOG 会

関西支部 丸山庄治 (S57 工学部卒)

2023年4月15日、昭和57年卒部のOBOG(本部・工学部)22名が湯田温泉に集まり、4年ぶりの同期会が「福の花」で開かれました。この3年間はコロナによる活動制限を受けていたので、こうやって宴に参加できる喜びもひとしおです。

容姿は当時とは少し変わったかもしれませんが、40数年前に気持ちがタイムリープしたような感じもします。ほとんどの人は体型が変わっていないのが驚きです。(すっかり肥満体型になったのは自分だけに思えて少し恥ずかしいような)

今回は長谷雄君が幹事を務め、今後は地元山口にいる坂田君が幹事を引き継いでくれることになりました。皆で協力しますのでよろしくお願いします。

各自の近況報告タイムでは、リタイヤしてスローな生活をエンジョイしている人、大学院に入学した人(学割がうらやましい)、語学や絵画の勉強を始めた人、海外で活躍している人、HPを始めた人(最後にリンクしておきます)、そして自身の健康や病気のこと、家族のこと(お孫さんが6人、親御さんの介護、子供さんの結婚等々)、最近始めたことなどバラエティに富んだ話題が紹介されました。各人が卒業後にそれぞれが歩んできた人生はいろいろあったと思いますが、それらを垣間見ることが出来ました。それにしても学生時代と変わらずアクティブな人たちばかりです。その中で昨年に逝去されたメッチェンの東さん(石井さん)を偲ぶお話が壇上さんからあり、生前の笑顔を思い出すとともにご冥福を祈りました。これからの人生、まずは健康第一になります。もう若くはないのですから自戒も込めて健康には留意したいと思います。

最初は席で並んでいましたが、途中から思い思いに移動し、あちこちに島ができて話に花が咲いていました。楽しいほど時間はすぐに経過してしまいます。最後は堀主将を中心に円陣を組んで旅鳥の合唱です。メロディーは体に染み込んでおり歌詞も自然と出てきます。すっかりあの頃のワングル部員に戻ってお開きとなりました。それにしても歳を重ねて、皆、穏やかでますます素敵になっているのが印象的でした。

その時の様子を You tube（限定公開）にアップしています。

（You tube）限定公開

（写真）

（坂田氏の HP）



<https://youtu.be/Cs7ZVIRH9uc>

<https://30d.jp/gangfan/1071>

<https://www.sakachin-kobo.com/>



## 6. エッセイ

花の山旅

九州支部 武富(伊藤)敏夫 (S45 経済学部)

福岡県と佐賀県にまたがる背振山系は、西の十坊山(535m)から始まり、いったん三瀬峠へと下って金山(967m)、背振山(1054m)や坂本峠を経て基山(405m)へとつながり、その距離はおおよそ60kmとなります。十坊山から背振山までは福岡県側からよりも佐賀県側からの方が比較的楽に登ることができます。

後期高齢者の仲間入りする前後より体力の衰えを感じ始め、初めて行く山は避難ルートがないと、一人で出かけることをためらうようになりました。吉田類の「にっぽん百低山」の「山高さがゆえに尊からず」のように、妻と二人で花の鑑賞などの目的を持って「福岡県低山」の山歩きをしています。4月から5月にかけては、どこの野山に出かけてもいろいろな花々が出迎えてくれ、私たちの目を楽しませてくれるとともに疲れた体を癒してくれます。

今回は、車で自宅から登山口まで1時間程度で到着できる、羽金山(900m)の「ツクシショウジョウバカマ」と井原山(983m)の「コバノミツバツツジ」や「ヒメナベワリ」などの花々を紹介しましょう。井原山では、7月中旬～下旬オレンジ色に咲く「オオキツネノカミソリ」の花の絨毯も見応えがあり、井原山は花の宝庫と言われているようです。

### 【羽金山の「ツクシショウジョウバカマ」】3月28日

羽金山の登山口「白糸の滝ふれあいの里」は、アジサイの咲く頃や7月～8月には白糸の滝の涼を求めて多くの家族連れなどが訪れる場所です。今回の登山ルートは、白糸の滝ふれあいの里～デッキ橋～白糸の滝分岐～河童山(874m)～羽金山～デッキ橋(電波塔専用道路経由)～白糸の滝ふれあいの里です。標高差420mですが実際はアップダウンがあるので535m、歩行距離8.6km、行動時間は休憩を含めて3時間24分でした。

白糸の滝ふれあいの里から林道を経て、ゲートから電波塔専用道路へ入り、デッキ橋までは約25分。デッキ橋から白糸の滝分岐を経て河童山までは緩やかな登りで、約1時間程度で到着します。白糸の滝分岐で、「デッキ橋を見過ぎて電波塔専用道路の先に行き引き返して来たことやツクシショウジョウバカマの群生が素晴らしい」と二人連れの登山者が話してくれました。河童山は羽金山方面の展望が開け、先ほどの二人連れと再び会い、山の話などをして山頂で写真を撮ってもらいました。

河童山から羽金山までは15分程度ですが、この縦走路にツクシショウジョウバカマの群生地が存在しています。

羽金山には西日本全域に電波時計等の電波を送信している、日本で2か所しかない「はがねやま標準電波送信所」があります。山頂は柵に囲われた敷地内にあり、敷地入口のインターフォンで係員に連絡し許可を取らなければなりません。許可を得て山頂へ到着すると係員が待っていて、名前等を必要書類に書くこととなります。また、敷地外へ出る時もインターフォンで係員へ連絡します。



羽金山からは長野峠との分岐を右手に見て、電波塔専用道路の舗装道路経由で白糸の滝ふれあいの里へと約1時間20分で到着です。この間の左手法面にもツクシショウジョウバカマの群生地があり、また、フキノトウがたくさん出ていて、それを摘んで帰りテンプラにして食べました。

### 【井原山の「コバノミツバツツジ」】4月27日

福岡に帰ってきてから、井原山はオオキツネノカミソリやコバノミツバツツジ鑑賞などで、佐賀県側から3度、福岡側から4度登り、今回で8度目となります。今回の登山ルートは、キトク橋～ア

ンノ滝～アンノ滝分岐～水無尾根分岐～縦走路瑞梅寺分岐～井原山～縦走路瑞梅寺分岐～水無尾根分岐～林間歩道分岐～アンノ滝分岐～アンノ滝～キトク橋です。標高差 736m ですが実際はアップダウンがあるので 774m、歩行距離 7.8km、行動時間は休憩を含めて 5 時間 49 分でした。

平日にもかかわらずキトク橋の駐車場は既に満杯のため路肩に駐車し出発です。アンノ滝分岐までは緩やかな登りが続き、渡渉を繰り返しながら約 50 分で到着します。水無分岐まではハードな登りが連続し約 40 分程度かかりますが、かつて故秋山さんがこの登りでバテてしまったことを思い出しました。縦走路瑞梅寺分岐から井原山までは石灰岩の露出帯があり、山頂近くになるとコバノミツバツツジの花のトンネルが始まり感嘆の声があがりました。山頂までは約 40 分ですが、山頂では大勢の登山客で賑わっており、三瀬峠に下る登山道付近の花の景色が大変素晴らしいものでした。山頂の岩場の中で昼食をとろうとしたところ、マムシが出ると看板で注意書きがしてあり、登山者から注意され慌ててその場所を移動しました。



下りは、水無尾根分岐から林間歩道分岐を経てアンノ滝分岐のルートを選択しましたが、花に詳しい 3 人の登山者が写真を撮っていて、今まで知らなかった花の名前を教えてください、その花々を撮りながら下山しました。この中でヒメナベワリは希少植物だそうです。現在 NHK で放映中の朝ドラ「らんまんの万太郎の世界だね」という声が聞かれました。

山の中では、登山道ですれ違う人に対して必ず「こんにちは」と声をかけ合い、また、何かしらお話をすることがあります。普段の日常生活ではとても考えられないことです。山は

心も体もリフレッシュしてくれる場所ではないでしょうか。

足の疲れが予想以上で下りを慎重に歩いたせいもあり、下山には約 3 時間を要しバテバテでキトク橋に午後 2 時 22 分にやっと到着し、今回の花の山旅が終わりました。

以下の写真は、花に詳しい 3 人の登山者から教えていただいた花々です。そのうちヒメナベワリは葉の下に花が咲く珍しい植物だそうです。花々を求めて低山へ出かけてみませんか。



ワングル夫婦の還暦後の会話  
～すべてはご縁に導かれ～

東京支部 S58 経済 泉谷幸児・恵

山口大学ワンダーフォーゲル部の入部が 1979 年（昭和 54 年）の春でした。このワングルの門をたたいたご縁で家内と出会いました。お互い、現役時代に北アルプスや南アルプス合宿を経験してきたので、今でも時々ぶらぶら自然の中を歩くのが好きなのですが、卒業後は全くトレッキングのチャンスも作らず、私はもっぱらゴルフに勤しんでしまいました。

時々、家内とドライブに行くのですが、中央高速を走るとき必ずでる独り言が「あの甲斐駒の八方尾根を登ったんだよな。北岳もまだいけると思うんだよな。」これに対して「なに言ってんの、もう 40 年以上前よ、その自信の根拠は。」てな会話をしておりました。

ところがお互い還暦を経て、初孫にも恵まれた昨年令和 4 年くらいから、少し鈍い体形も気になり始めたせいか Montbell 社のトレッキングシューズを買い、近くの低山に時々一緒に登り始めました。（帰りの温泉が楽しみなのですが）大山（1250m）三輪山（467m 大神神社のご神体山）日向山（280m）、熊野古道巡りなどなど。こないだ奈良市の飛鳥路巡りはサイクリングも入り、まるで山口盆地の学生時代を思い出すような感覚が戻ってきてお互い楽しい時間を過ごしました。

そして、最近の我々の会話の中身がずいぶんとが変わってきているのです。「さあ、次はアルプスか！」（夫）「まずは涸沢を攻めよう。」（妻）少々根拠のない自信ですが、どうやら人の成長はこの「根拠のない自信」から始まるようで、最近の低山巡りを超えてぜひまたアルプスに向かいたいと思います。 精進致します。



【伊勢原 大山（おおやま）1252m 登山】  
2023.1 月 3 日

## 山の花を訪ねて

山口支部 野村（内田）英明（S47 文理）

山口県の地方紙「山口民報」に「心魅かれる山の花」と題した写真と短文を一年間連載しました。これはその中から、山口県内で見られる花を抜粋したものです。

### ユウスゲ

夏の暑い盛り、夕方から、百合に似た黄色い花を開き、翌日午前中にはしぼんでしまうユウスゲ。背丈は 100～150 cm ですらりとしていて、一本に数輪の花が次々に開花します。花言葉は「麗しき姿」という一日花です。

山口市阿東の船平山（標高 431m）、昔は山頂近くにスキー場がありました。そこに自生していたユウスゲを、地元の人が保護して群生地になっています。山口県レッドリストに選定されていて、ここのように広い面積で群生しているのは珍しい。



### ハシナガヤマサギソウ（嘴長山鷲草）

秋吉台には 2000 種類以上の植物があるといえます。縦横にひろがる散歩道を、ゆっくり足元を見ながら歩くと、オキナグサ、ナンバンギセルなど、季節ごとに知られた花や珍しい花に会えます。

その中で私のイチオシはハシナガヤマサギソウ。日当たりの良い草地に生えるラン科の多年草。山焼き後、草原が緑色に変わってくる四月下旬から秋吉台のあちこちで咲き始めます。緑のなかに高くても 30 cm ほどの淡黄緑色の花はあまり目立ちませんが、この静かな愛らしさが魅力です。



### シャクナゲ

五月初旬、山の中でみるシャクナゲは格別です。九州の大分・宮崎県境の稜線を歩き、濃い緑の葉のなかで花を開いているシャクナゲに会う楽しみ。つぼみは真っ赤ですが、しだいに薄い赤からピンクに変わっていく様子が美しい。九州では犬が岳や岳滅鬼山など名所がたくさんありますが、私のお薦めは、九重の牧ノ戸峠から行く大崩の辻。

県内の自生地では萩市阿武川ダム近くの江舟岳（六〇〇m）が知られています。展望の少ない登山道ですが、キンラン、



エビネなどの希少植物が豊富です。

### ヤマシャクヤク

ヤマシャクヤクは山地や深山の林床に生える野生のシャクヤクです。葉が開いたのち、4月下旬から5月初旬に白い五弁の花を一茎に一輪咲かせます。花は5 cm 前後の大輪で、白い花弁に黄色の葯がとてもよく目立ち、美しい。

山口市の十種ヶ峰の大群落は日本最大という方もいるほどの規模です。山口市阿東の神角登山口から、しばらく舗装された林道を歩き山道に入りしばらく登ると、標高 600m から 850m の斜面を覆う大群落があらわれます。開花時期には登りの一方通行です。山芍薬は開花してしまうと一日で散る花ですので、満開の時期に登れた方は幸せです。



### カタクリ

春を待ちつつ山を思うとき、まず浮かぶのはカタクリ。陽があたると、紅紫の細い花びらを見事に反り返らせる可憐な姿。四月中旬から咲き始め、花が終わると地上部は枯れ、種子で繁殖。発芽から開花までは八～九年かかり、かつては鱗茎から片栗粉をつくっていました。

県内では、寂地山（一三三七 m）周辺が有名。最近、熱心な保護活動で弟見山（一〇八五 m）の群落も広がっています。寂地山への松ノ木峠からのコースは、カラマツの新芽を楽しみ、長い稜線をたどって、カタクリにどこで会えるか、ワクワクしながら登るのが楽しみです。



### ミツマタ

和紙の原材料として日本各地で栽培されてきたミツマタ。今では放棄された栽培地跡で三月中旬頃から黄色いきれいな花を咲かせています。私が最初にみたのは大分県九重町の「竜門の滝」の近く。杉林の広い斜面全体を覆う黄色い花に圧倒されました。一つ一つの花も可憐です。英彦山など各地の名所がネットで拡散しています。

県内では、長門市の花尾山（六六九 m）の麓。旧秋芳町側から登る途中にある群生地が評判になっています。なかなかの広さで、歩く距離も比較的短く、栽培されていた当時の石垣も残っています。



### オオキツネノカミソリ

七月下旬から八月頃に、彼岸花のようにいきなり茎が伸びて、オレンジ色の細い花びらが開きます。九州では井原山（福岡県糸島市）の中腹が最大の群生地だそうです。日陰の登山道の両側一面にオレンジ色の花が密集して林立しています。

県内では、暑い夏の盛りに涼しい秋吉台・大正洞入り口で発見。そういえば、井原山の群生地の近くにも冷たい風が吹き出す風穴があります。



### オオヤマレンゲ

「森の貴婦人」とも「天女花」とも呼ばれ、標高 1200m 以上の山に自生。樹高約4メートル内外の落葉低木。梅雨の間の六月頃に 13 cm前後の純白の花を咲かせます。つぼみも純白の卵形です。

濃さをます緑の中、ぽっかりと浮きあがる純白の花に出会うと蒸し暑さも忘れます。九州では祖母、傾の縦走路、九重の獺師山や雨ヶ池越、大戸越などで見られますが、県内でも広島県境の寂地山、冠山の周辺などでこの「貴婦人」に会えます。



### ササユリ

ササユリ（笹百合）は、6月～7月頃に長い茎の先に淡いピンク色の花を咲かせる日本特産のユリです。葉が笹の葉にそっくり。でも柔らかい感触が違います。ロート状の花は大輪で 10～15cm、ときに純白の花もあり花言葉は「上品」です。

周南市鹿野の長野山では山頂周辺の自生地が保護され、車道終点の「天空カフェ」の前にも。長野山から馬糞が岳の縦走路、冠山や十方山、鳳雛山の登山道などでもわずかに見かけます。天神山公園（鹿野）の群生も見事ですが、深い山の緑のなかに静かに咲く自生のササユリの上品さは格別です。



福岡市西区と糸島市に位置する糸島半島には、登山口から約 1 時間程度で登れる低山が多くあります。柑子岳(254.6m)・灘山(209.2m)・蒙古山(158.5m)・可也山(365.1m)・立石山(209.6m)などであり、天気の良い時には山頂や展望台から玄界灘や遠く壱岐までも見ることができます。

可也山は標高が 365m であることから一年山とか糸島富士として親しまれ、ふもとは小富士梅林が広がり、梅の花を楽しませてくれます。令和 4 年(2022)、「歩く唐津街道の旅 2022」の世話人の方の一人が小富士梅林を管理されており、その梅林で梅干し・梅酒用として南高梅や豊後梅をちぎらせていただきました。今年 6 月も梅ちぎりをさせていただきましたが、不作とのことでした。この「歩く唐津街道の旅」は玄海風景街道の活動の一環として実施しているもので、玄海風景街道は日本風景街道の九州のルートの一つとして登録されています。皆さんの近くにも日本風景街道のルートとして登録されているところがあると思います。

令和 4 年(2022)は我が国とモンゴル国との国交樹立 50 周年にあたり、令和 6 年(2024)には文永の役(1274)から 750 年となります。中世博多は元寇の際、蒙古・高麗の上陸の地で、数多くの史跡が福岡市内にあり、その中で元寇防塁は今津、生の松原、西南大学裏手などに残っています。先に紹介した糸島半島の北端にある蒙古山は、元寇の際、見張り台がおかれ死者を埋葬したといわれています。山頂には明治 28 年(1895)7 月、地元の有志により建立された「蒙古山之碑」がありますが、平成 17 年(2005)の福岡西方沖地震で土台ごと倒壊したままの状態でした。

令和 2 年(2020)秋、蒙古山に登った九州大学大学院のモンゴル留学生が、倒れた石碑を見て「先祖の供養のためにも修復して欲しい」と、在福岡モンゴル名誉領事館理事に訴えたそうです。それからの経緯は後述することとして、私も令和 3 年(2021)12 月に蒙古山に登りましたので、まずはその様子からお話しましょう。

西浦漁港の岸壁に車を駐車して登り始めました。岸壁に車を駐車して良いか許可をとるため、近くを歩いている方に問い合わせると、以前はいりこの干場であったが駐車して良いとのことでした。かつては海辺でいりこ干が盛んに行われていましたが、それも過去の懐かしい風景となりました。



妙見山の鞍部まで登り妙見山へピストンしようとしたのですが、妙見山への道がわからないため鞍部から蒙古山へと赤いテープ頼りに行くことになりました。妙見山にはかつては地元の神社があったそうですが、現在ではふもとに移されているとのことです。電気やガスを利用していない時代は、暖房、炊事、風呂などはマキの利用が主流でした。マキを取りに行くことで山の中の道もはっきりしていたそうですが、今はそれらの道も荒れているとのことです。妙見山鞍部から程なく蒙古山に到着です。山頂は樹木が生い茂り展望が全くきかず、「蒙古山之碑」は倒れたままです。その時の写真は左の通りです。西浦岬への下りも道に倒木がありそれを迂回してやっと林道に出ることができ、西浦漁港の岸壁に戻りました。

「蒙古山之碑」の修復の経緯をお話を戻しましょう。モンゴル留学生からの申し出を受け、在福岡モンゴル名誉領事館理事とモンゴル友好協会会長が蒙古山に登り修復を決意しました。国交樹立 50 周年記念事業として、在福岡モンゴル名誉領事館とモンゴル友好協会などで資金を募り、地元と協力して令和 3 年(2021)11 月から整備が始まりました。木々が生い茂り登るのもままならない山

に道を造成し、説明板やベンチを設け、山頂一帯の雑木を伐採し、かつてのように四周に視界を開いて公園化しています。

令和4年(2022)11月29日、山頂で行われた完成式典には、地元住民、元横綱白鵬、モンゴル人関係者など約100人が参列したとのこと。大相撲の世界では、元横綱の白鵬はじめ多くのモンゴル出身力士が活躍しています。大口寄付をした元横綱白鵬などのモンゴル出身力士や柳田などのソフトバンクのプロ野球選手の名前が山頂の記念碑に刻まれています。また、元横綱白鵬の手形も設置されています。山頂には石碑が修復され右の写真のように立っており、倒れていた石碑を磨いて使用しているようです。



西日本新聞の「歴史見つめ平和考える」を読み、令和5年(2023)1月、整備された蒙古山に登ることにしました。前と同じく西浦漁港の岸壁から登山開始です。今回は直接蒙古山を目指すことにしました。新聞記事のとおり、登山道は整備され、ところどころにベンチが設けられていました。山頂直下まで車で行くことができますが、そこからが急登で無理やり登山道を整備した感じです。また、樹木も伐採され山頂一帯からの山肌は樹木の墓場のような感じです。妙見山からの登山道や西浦岬へと下る登山道も不明瞭になっています。山頂で行われた完成式典には元横綱白鵬も参列したとのことですが、途中まで車で行くことができたとしても、あの急登をどのようにして登ったのか不思議でなりません。

石碑の修復と四周に視界を開いて公園化された山頂に立ち、令和3年(2021)12月、石碑が倒れたままの山頂に訪れていて良かったと思いました。



※豊後梅はその名に示すように豊後(大分県)に発祥し、古くから豊後の名産として知られています。

ウメとアズノの交配種と言われており、直径約5cm、重さ60gになる特大の果実をつける、いわゆる「大梅」の一種です。

※日本風景街道とは、道を舞台に、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を生かし、美しい国土景観の形成、地域活性化や観光振興を行っていく国民的運動です。九州では15ルートが登録され、地域の皆さんが地域の魅力の創出・発信に取り組んでいます。

※令和4年(2022)12月23日付、西日本新聞「歴史見つめ平和考える」から、一部文章を抜粋し使用しています。

「水芭蕉」(ミズバショウ) といえば、「夏が来れば思い出すはるかな尾瀬遠い空」の『夏の思い出』(1948年)の歌詞が思い浮かぶ。この歌は中学の音楽の教科書にも掲載され、合唱曲としても編曲され、時代を越えて長く歌い継がれている。誰もが若い頃、教室の片隅でも、緑の野原で薫風に吹かれながらも、またワングルの仲間たちとランプの灯るテントの中でよく歌ったもので、「水芭蕉の花が咲いてる夢みて咲いてるー」は忘れられない一節である。そして今も目をつぶれば、尾瀬ヶ原の湿原に咲く「水芭蕉」の群落が白く浮かぶ。

「水芭蕉」は「カラー」(原産地南アフリカ)と同じサトイモ科の多年草であるが、固有種があることが違う。中心の棒状の花を包み込む白い苞(ほう)を付けるその姿が、仏像の背の飾り(炎形)に似ていることから、仏炎苞と呼ばれている。葉の形が芭蕉(バショウ)に似ていて水辺に生えることからこの名があるという。ちなみに、花言葉は「美しい思い出」とか、雪解け水に咲く清楚な雰囲気をよく表している(一部 Wikipedia)。



尾瀬ヶ原湿原の水芭蕉群落 (2015/6)

もう一つは「エーデルワイス」(Edelweiss, *L. alpinum*)。スイスの山については、WVHPの会員からの報告として、「旅鳥逍遥」3.スイス編を掲載した(2022/6)。下図はマッターホルン・トレッキングの折に撮った写真である。この花の名はドイツ語で「高貴な白」であり、花言葉も「大切な思い出」(他に「勇気」・「忍耐」と言い伝えられている。この花はアルプスではかつては登山家の間で「アルプスの星」と呼ばれ、憧れの花だったそうで、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の挿入歌としても有名である。そう言えば筆者もWV部に入部当初、帽子に憧れのエーデルワイスの花のバッジを付け、野山をさまよったものである。遠い古い記憶である。

「エーデルワイス」は、日本国内でも「セイヨウスユキソウ」(西洋薄雪草)・「ハナウスユキソウ」(花薄雪草)など6種類も多くあるが、一般的にもっとも国内のものと同外観が似ている近縁種は「ハヤチネウスユキソウ」である。

マッターホルン  
トレッキング (2008/8)

## 日本一の山シャクヤク 十種ヶ峰 秘密の花園

山口支部 山本太起子 (S47 山本充二の妻)

2006年のことです。昔のことです。夫がまだ現役で元気な頃です。

「山本さん、うちの裏山が大変なことに！山シャクヤクの秘密の花園になっちゃるんよ。登りに来られませんか？」と誘われたのです。

その住人は山シャクヤクルートの地元、神角地区の方でした。早速友人3名と私たち夫婦5名で出発しました。登山口の大きな枝垂れ桜をくぐり、イノシシ除け柵を開けさせてもらって、30分ほどの車道歩き。軽トラなら通行可の幅でしょうか。そこからは、崩れかかった登山道30分。やれやれと一息ついたところから今度は沢歩き。と、言っても、晴天が続いていれば、水流なしの涸れ沢です。が、岩がごろごろしてるので、足場を確かめ、木の根や岩を3点確保で支えながら登ること30分。(この2年後、私は、麓の全校25名の小学生と同ルートに登山しました。「わーお、俺ら、原始人みたい！楽しいのー！」と、はしゃぎまわった言葉が忘れられません。怖いどころか楽しさ爆発でした。)

その涸れ沢を渡り、やれやれと思った所からまた登山道。10分も歩くでしょうか、突然、現れます！待望の清らかな人生で初の山シャクヤク。(「まんじゅうみたい、白い饅頭花」と、先述の小学生たちは口々に叫びました。)1本の茎からたった一つの大きめのピンポン玉が丸く。それが、山肌に群れを成して咲いているのです。

「おいおいおい、なんじゃあこりゃあ！！！！」「すげえねえ、なんなん！この山シャクヤク」その頃は、まだ、今のように登山道にロープも張られてなかったもので、道から外れて、大の大人が、右に左に広がる群生を追って、山の斜面に入ってまで見ました。「山のお花畑って、小さくて可憐なのが多いけど、このピンポン玉の存在感！」「しかも、白一色、しかも1茎に1つの花」「日当たりのいい方が先に咲いちゃうねえ」「こちらの陰はつぼみが固いのお、あと1週間か」などなど。知ったかぶりの植物学者に早変わり。前後に登山者誰もなく、山は貸し切り状態。頂上に向かいながらも、花を楽しむ喜びに、急坂のつらさも感じずわいわい登れました。こんな登山初めてでした。

視線を頂上の方に向けると、木の間から、青い空が見え隠れ。「あー頂上だね。」「頂上じゃない、尾根じゃあ」そこは、徳佐駅の方からのルートと合流する尾根でした。登山口から2時間余り、山シャクヤクの美しさ、初体験の興奮に疲れもなし。

下山して、すぐに紹介して下さった方に電話でお礼。「子供のころは、山にも行きよったけどここ何年道が崩れて、人が入らんかったんよ。静かに山シャクヤクは育てたんでしょねえ。」とのことでした。たくさんの感謝、感動の言葉を伝えました。と、ここまでは、2006年の初山シャクヤクの登山記。

その後、このルートが気に入った私達は、初めての友人を誘い何度か会いに行きました。まだ、世間に知る人が少ない頃でした。「この花園、絶対日本一よね」「花はいっぱい、人は

少ない、秘密秘密秘密の花園！」「あちこちでしゃべったら、花好きは絶対来るから、そのうち秘密どころか大人気になるかもな。」（今では、福岡県からの大型バスも来ますよ。）

そうこうするうちに、2011年、夫はがんに遭遇。治療に専念しました。順調に進んだ治療でしたが、2012年、2月、肺への転移。しかし、気力だけは充分でした。

が、2012年5月。「山シャクヤクに会いに行こう」と、何人かの友人を誘いました。出かけるその朝、小雨が降りだしたのです。「晴れを予約しといたが、雨かー。残念だがあきらめよう、無理はすまい、決断が大事。」と決行中止！誘われた友人たちは非常に残念がりました。当の本人は「残念だが雨でよかった、登れなかったかも知れん。」と思わぬ弱音を吐いたのです。

.. 実は、その1週間前のことです。JR山口線仁保駅近くの方面山に登りました。小さいかわい山です。わたしは、後ろ向きでスキップで登れるような山です。しかし、夫は、見るからに苦しんでいるようでした。あとから思えば、山シャクヤクの十種ヶ峰を最後の山にしたかったのかもしれませんが、それもかなわず、かわいい方面山が、最後の山になりました。2012年6月17日、山本充二は、木曾駒ヶ岳登頂の遺影を残し、愛用の登山服に身を包み旅立ちました。

同伴の相棒を失い私も落ち込み、東鳳翔山にも十種ヶ峰にも五年間ご無沙汰してしまいました。じわっと元気が出てきた2018年。上田功さんと夫と私で約束していた北アルプス白馬岳登山を果たすべく息子2人を誘い決行しました。夫が愛してのめりこんだ山の魅力を息子に伝えるのも私の役目かなと感じていたのです。綿密な山行計画 山小屋の手配など上田さんに頼りきりの2泊3日でした。息子2人は、北アルプス本格登山は初めてのことで、服から靴からザックまで、新調新調で浮かれておりました。雷鳥にも会え、大雪渓をアイゼンで歩き、雨に打たれながらも、雄大な山々を感じ、父親の趣味から何かを学んでくれたことでしょう。白馬の頂上にほんの少し散灰させてもらいました。上田さん！ありがとうございました！

そのあとです。4年間、御多分に漏れず、私は、高齢者の変形性膝関節症とやらでまたまた、近場の山からも遠のく日々。そして、体重減少とともに再びじわっと元気が出た今年2023年、4月4日、真田義子さんからの「山シャクヤクに会いたい」というメールです。

いよいよ今回原稿のメインです。話はどんどん進み野村英昭さん、池富士清さんの奥様の淑江さん、真田さん、私の4人で4月18日決行となったのです。「天気は俺が予約しておいた」というのが口癖の夫の言う通りバッチグーでした。平日で、私たちの前後はほんの少しの登山者です。思いっきり我らペースです。励ましあい、休んだり、喋ったり、ついにある白いまんじゅう花、秘密の花園、山シャクヤクの園に到着です。「わー、こんなにたくさん」「あんな高い所にも」「あらこんな道のそばにも」「前より増えてるなあ」「どんどん上に向かって広がってますね」「絶対日本一ですよ」「多分そうでしょう」原始人の沢登りの苦労も吹っ飛んで、写真撮ったり感心したり。

私がおこ数年休んでる間に、山シャクヤクは山の斜面の右に左に、尾根に向かって上へ上

へと広がっていました。びっくりです。地下茎で広がるのでしょうか？実でしょうか？神木隆之介君扮する槇野万太郎くんに聞いてみましょう。

尾根に出て、少し休憩。そこから十種ヶ峰の頂上までが細い尾根歩き。風もあるし結構きびしい。しかし、登山口の神角集落や、遠くに山口の鳳翔山や、徳佐の集落が見えてくると急に元気が出てきます。頂上は絶景です。津和野青野山もよく見え、阿武郡の山並みかのびやかに広がっています。運が良ければ、ハングライダーを楽しんでいる人にも会えますよ。風が強かったので少し下った所でお弁当を食べました。満足感いっぱいでした。そこから下りです。山シャクヤクルートは、一方通行なのです。登りとは全然違う道です。道幅もあり安全で緩やかではありますが、意外や意外、長い長い九十九折りなのです。最初はよもやま話に気を紛らわせていましたが、だんだんに無口の4人。久しぶりの私も実は参りました。しかし、夫を知る3人のワングル仲間との十種ヶ峰上り下りは最高でした。この駄文を読まれて「行きたい！！」と思われた方、初めての方には必殺甘やかしルートがあることをお教えしますので遠慮なく私を誘ってください。いくら遠慮に見積もっても十種ヶ峰山シャクヤクは日本一です。平日狙いで。毎年開花期は早まっているようです。今年、4月18日は最高でした。開花期は2週間ぐらいですよ。お待ちしております。



# 一ノ坂銀山と幕末長州藩の軍資金との関連性について

山口支部 S52 経済 古谷眞之助

## 1. 興味深いエッセイ

幕末長州藩が最新式の武器購入を行った資金の出どころの主たるものが撫育金であるのは定説と言って良いだろうが、先日、その撫育金のルーツこそが一ノ坂銀山ではないか、との説を紹介されたのを機に、改めて一ノ坂銀山と撫育制度、幕末軍資金との関連性について調べてみた。以下の一文は、この説への自分なりの考えを書いてみたものである。

その説と言うのは、フィクションとは断りながらも、「萩往還の秘密」という、ややセンセーショナルな表題で書かれたエッセイ風のもので、筆者がこれまでの語り部の会の研修で学んだ知識をベースに考えれば「えっ、まさか！そんな！」と思われるものであり、これに敏感に反応したという経緯がある。

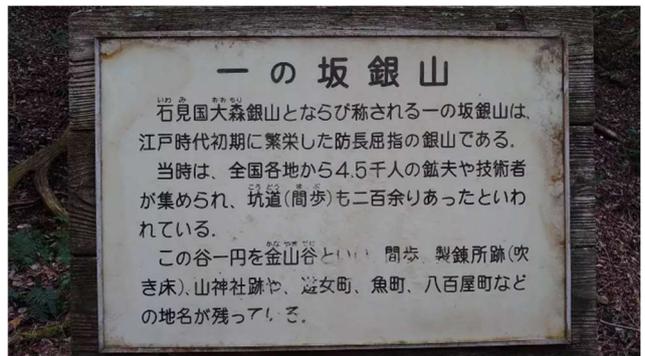
ともかく、「萩往還の秘密」という表題は刺激的な言葉でもあり、説としては興味津々なものであるが故に、自分も改めて調べてみようと思った次第なのである。参考資料名は数字で示し、巻末に一括掲載した。



【板堂峠近くの国境の碑の左手から銀山に下る道がある】

## 2. 萩城築城、城下町建設に寄与した一ノ坂銀山

萩往還一の難所、板堂峠の北方にある金山谷(現・山口市大字宮野上字金山139番地ノ1付近)にかつて一ノ坂銀山があり、最盛期には間歩(まぶ・坑道)20数か所、常駐藩士若干名、鉱夫ら5,000人、彼らのための小屋が3,000軒を数えるほどに栄えて、その繁栄ぶりは、遊女(女郎)町、魚屋町、八百屋町、呉服埭という地名にもうかがうことが出来、またここでは単に採掘が行われただけでなく、カラミと呼ばれる鉱滓が出土していることから、灰吹法という銀の精錬も行われていたことが確実視されている、ということは語り部研修で学んだことである。



【旧坑道後に設置された山口市教育委員会の説明看板】

しかし、江戸幕府に対しては、それ以前に採掘しておりながら、慶長19年に新たに発見したとして銀山開発を上申している点などから推測して、大手を振って採掘したというよりは、「密かに」という部分もあるようで、長州藩の地理書「地下上申」には「一か月に銀千枚宛て運上されたという『千枚間歩が』あった」と記されているものの、一体全体でどれくらいの産出量があったのか、銀採掘が行われた期間を通じての正確な記録は毛利家文書にも残っていないようである。考えてみれば、これはおかしいことで、一説には一時は藩の全歳入の20%以上にも達したと言われる鉱山からの利益に藩が無関心でいたはずはないから、公にはしないにしても正確な産出量記録はあったに違いない、それが無いのは、秘密にして置きたいという藩の意図の表れではないか、と勘繰ったとしても、あながち無理な推測とも言えないだろう。ともあれ、一ノ坂銀山からの利益が、関ヶ原の戦いに敗れて防長二州に移封された毛利氏にとって、萩の築城や城下町整備の財政的基礎となったことは間違いなく、いくつかの資料には以下のように記されている。下線は筆者による。

「一ノ坂銀山が長州藩成立期に、壮大な萩居城と城下町建設、参勤交代制、幕府の普請役の負担などの財政面に寄与したことは知るべきである。萩往還は一ノ坂銀山の出入り口を通過し、銀山への交通路、つまり

シルバー・ロードでもあった。しかし、銀山の盛況が長く続かず、鉱脈がつき果てたか、もしくは地下水湧出のためか、寛永年間ごろに廃絶した」(資料③)

「萩築城の頃、一ノ坂において銀山が開発され、慶長・元和・寛永(1596~1643)のころ、盛んに稼行して藩政創業期の財政の難局をよく切り抜けた」(資料④)

「一ノ坂銀山経営のため、藩府は藩士若干を常駐させ、運用銀、口屋役銀などを徴収したことなども、文書史料によって明らかである。一ノ坂銀山が長州藩成立期に、壮大な居城と城下町建設、参勤交代制、幕府の普請助役などの財政面に寄与したことは知るべきである」(資料⑤)

「・・・毛利家の領分が防長二州に縮まって、財政が頗る困難な状態に陥っていた時、諸所の鉱山がその助けとなったことは非常なものであります。(中略)山口の一ノ坂の銀山などは大いに助けをしたもので、これは元就公の十州御支配の頃から始まって随分利益のあったものと見えます。公が朝廷へ御納納遊ばした御銀子の中にも、一ノ坂で掘り出した銀があったということを話に承っています」



(資料⑥)

【一ノ坂銀山で作られた「天又銀」 山口市歴史民俗資料館 蔵】

### 3. 長州藩内の金・銀鉱山と開閉山時期

ところで、長州藩内には、江戸期以前から採掘されていた鉱山は62か所もあったと言われている。(資料⑦) そのうち金山は1か所、銀山(むしろ銅の産出が多い鉱山も含む)は12か所である。当時、産出鉱物の種類を問わず、鉱山を総称して金山(かなやま)、ないしは単に山(やま)と呼んでいた。「山口」の名の由来も「長門国に多くあった鉱山への入り口」という説があるくらいなのである。資料⑦をもとに、金・銀鉱山のみをピックアップして採掘開始から閉山までを一覧表にまとめてみたものが、以下の表である。

#### 江戸期以前に開発された山口県内の金・銀山

「生産遺跡分布調査報告書」1982山口県教育委員会 により古谷作成

鉱山名	所在地	産出	開山	西暦	閉山	西暦	関係する地名・備考
青景	秋芳町青景	銀	元龜4年	1573	寛永15年	1638	1595までが最も栄えた。約60年操業
金山	秋芳町金山	銀	元龜4年	1573	寛永15年	1638	
赤小野	美東町絵堂	銅・銀	天正年間	1574~1591	不明		
赤絵堂	美東町赤	銀	天正年間	1574~1591	不明		
杉山	三隅町杉山	銀	天正年間	1574~1591	万治1、2年	1658~1659	女郎屋敷
一ノ坂	山口市宮野上金山	銀	天正19年 注①	1591	元和16年頃	1639 注②	金山谷、女郎町、呉服町
長登	美東町長登 葛籠ヶ葉山	銅・銀	江戸時代初期	1600頃	不明		
阿川	豊北町阿川	金	江戸時代初期	1600頃	昭和15年	1935	鉱夫500人 県内唯一の金山
多万	田万川町史下田万金山	銀	江戸時代初期	1600頃	昭和20年代	1945~1955	
芦田	秋芳町芦田	銀	元和3年頃	1624	不明		
金山	美東町長田金山	銀	元禄2年	1689	元禄8年頃	1695年頃	
横野山	美東町横野山、金山	銀	文化年間	1804~1818	不明		
渋木	長門市渋木市ノ尾	銀	不明		不明		

注① 1596~1643としているものもある。また開山は天正19年以前というのが定説

注② 銀以外の銅・マンガンは昭和20年頃まで続いた

ここで注目したいのは、金・銀鉱山がほぼ長門国内に分布していること、そして、特記すべきは、いずれも16世紀末から17世紀初頭にかけて操業開始となり、鉱山としての機能は、ほとんどが17世紀半ばに失われているということである。つまり、萩藩の銀鉱山が藩財政に寄与できたのは、17世紀半ば(1650)頃までと結論付けて良いようである。このことはまずしっかりと念頭に置いておかねばならない。例えば、**資料②**によれば、慶長12年(1604)には「山領利得分」と呼ばれる鉱山経営による収入は銀133貫733匁であり、鉱山の盛況によるものとみられるが、慶長19年(1613)には、銀28貫目と1/4以下に激減しており、鉱脈の急速な枯渇によるものと考えられる。また同資料の以下の記述からも、鉱山の隆盛期はそれほど長期間ではなかったことがうかがえる。

「過酷な三井検地や盛期の鉱山などによって一旦改善した藩財政は、元和期(1615~1624)に入ると鉱山収入の減少によって歳入は大幅に減少し、軍役、普請役、参勤などによって出費がかさみ、元和9(1623)年までに4,000貫目の借銀が出来た」

#### 4. 撫育制度と幕末軍資金

貨幣経済が武家社会を席卷するようになって以降の藩財政は、長州藩のみならず、あまねく藩において逼迫の度を強めていったのはよく知られていることである。しかし、長州藩とて、ただ手をこまねいていたわけではなく、様々な手を打って入る。しかし、支配階層でありながら、経済的にはどんどん追い詰められて行き、それは儉約令などという生半可な策ではとても対応しきれなくなって、ついには馳走米という藩士の賃金カットが恒常化してしまう事態に追い込まれる。ともかく藩財政は苦闘の連続であった。一時、借銀は8万貫目という数字を記録している。借銀が藩の歳入の20倍にもなったらしい。そんな状況になって、いよいよ重就公による撫育方の登場となるのである。それは宝暦13年(1763)のことで、重就はその責任者に坂九郎左衛門を抜擢した。撫育方とは以下のように説明されている。

「萩藩撫育方(臨時特別会計)は、宝暦検地後、その歳入増石四万石余りを本勘(一般会計)から引き分けることで成立した。撫育方仕法の特徴は、藩主の許可がないかぎり絶対に支出を許さないことにあり、ここでの『引き分け』とは本勘からの隔離に他ならない。藩主重就は当職(注・藩の重要役職名)に対して、『撫育方の収入はあてにせず、撫育資金はないものと思え』と声明している。」(**資料②**) その原資には、検地による増石四万石のみでなく、山林税、直轄林の立ち木売却代など、家中馳走米と地下馳走米、没禄減禄があった場合は、その1/3、また、後には撫育金そのものによる運用益も当然加えられていたのである。

これは、儉約令の結果から生まれた余剰金を不時に備えて蓄えておく制度、いわゆる御納戸倉の貯蔵、宝蔵金、御穴倉金というものとは性質は全く別物で、単に余剰が生じたから蓄えておく、程度のものではなく、基金をベースに、単に蓄財するだけでなく、より積極的に運用益を得る独立会計とも言える画期的なものだった。そういう意味では、1650年代に堅田就政が当職在任中に蓄積して開始された「仕置銀」は、撫育銀同様に本会計とは別の特別会計ではあったものの、やや性質を異にする。

撫育金は藩主の許可なく支出することはできなかったが、**資料②**によれば、撫育金の放出は、明和元年(1764)から寛政12年(1800)にかけて、ほぼ毎年のように行われている。そして寛政12年には、ついに撫育金は一掃されて藩費の補助に充てられた。つまり、お金に色目はつけられないが、ともかくこの時点で撫育金の残高は完璧にゼロとなったことを認識しておく必要がある。しかし、翌年から直ちに蓄財が再開されていった。そして、これ以降、文久元年に至るまでの60年間は大した支出がなく、この蓄積が幕末の軍事費に一気に使用されたと考えられているのである。

慶応元年、四境戦争に際しては、長崎出張中の伊藤・井上から蒸気船購入打診があり、この船価3万9,000両の大半は撫育方の資金に頼らざるを得なかったが、敬親公はこれを認め、購入を命じた。蒸気船の他に短装条銃4,300挺を一挺18両宛、剣銃3,000挺を一挺5両宛、合計9万2,400両と蒸気船分とを合わせた13万1,400両を撫育金から支出することにしたのである。( **資料①** ) まさに武器調達のための軍事費の出どころは撫育金であったのである。

維新後、山口藩(山口市の政治中心があった時期の藩名)にはなお約100万両が備蓄されており、最後の

藩主・毛利元徳は、そのうちから70万両を朝廷・新政府に進献した、と資料①にあるが、正に撫育制度あればこそ、の進献だったと言えるだろう。

## 5. 私なりの結論と歴史におけるロマン

最後にもう一度、要点を整理してみよう。一ノ坂銀山は、

- ① 17世紀初頭の長州藩成立期の築城や萩城下町建設に大きく貢献した。
- ② しかし、銀山としての機能は1650年を迎える前に早くも衰退してしまう。
- ③ 撫育制度は1763年に始まったが、1800年には一旦すべて本会計に繰り入れられて残高はゼロになる。仮に撫育金の中に一ノ坂銀山の一部が残っていたとしても、この時点で一掃されたことになる。
- ④ その後の約60年の蓄積が幕末の武器購入に大きく貢献したのは上述のとおり、そしてまた、資金不足の明治新政府へ70万両もの大金を進献できたのも、この撫育金あればこそ、である。

以上のように一ノ坂銀山と撫育金とを考えると、「一ノ坂銀山が直接的に維新回天に一役買っていた」と言うのには少々無理があり、一ノ坂銀山と撫育金との直接的関連性はないと言う方が素直で妥当だと思っている。ただ、萩往還のガイドとして思うのは、確かに史実には忠実にあらねばならないにしろ、同時にロマンも感じたいし、語りたいのである。史実は史実として、史実と史実の隙間、空白部分をどのように埋めて行くかは、ひとえに解釈者の判断、考え一つにゆだねられているのだと思う。そして、それは歴史学者ならぬ身にとってみれば、かなり自由なものであって良いと思うのである。

有名な街道沿いには必ず悲恋物語が残っているものだが、私の知る限り、不思議と萩往還沿いにはこれが残されていない。道の駅「萩往還」近くの大屋刑場で磔の刑に処された後に、藩医・栗山孝庵によってわが国で初めて解剖された百姓の娘「美濃」も、よくよく調べてみれば悲恋と言うよりも不倫の果ての処刑だったと言うべきだし、防府・勝坂の茶屋の人気娘「おろく」にしても、器量よしにありがちな、やや鼻持ちならない女性であったような気がする。ガイドする立場からすれば、もう少し美しい恋物語が萩往還に欲しいのである。とすれば、一ノ坂銀山を以下のように考えてみたらどうだろうか・・・

「幕末、藩の宝蔵の中には、天又銀がザックザックと残っていた」かもしれないし、銀山が衰退したというのは表向きの話で、「実は幕府に対しては秘中の秘として、倒幕を夢見て秘密裏に採掘が続けられていた」と考えても、荒唐無稽な話ではない。そのため「板堂峠は幕府隠密と、それを防ぐ藩の秘密組織の跋扈する峠だった」と考えるのも面白い。また、これは是非そうあって欲しいのだが、一ノ坂銀山に常駐した若い藩士と女郎に売られた美しい娘との悲恋物語があったとしても、少しもおかしくないと思うのだが、如何なものだろうか。そうこう考えると、ちょっとした時代小説が書けそうな気がしてくるのである。 以上

### 【参考資料】

資料①	「萩藩の財政と撫育制度」	三坂圭治	1977
資料②	「萩藩財政史の研究」	田中誠二	2013
資料③	「歴史の道調査報告 萩往還」	山口県教育委員会	1981
資料④	「山口市史」	山口市史編纂委員会	1982
資料⑤	「山口一ノ坂銀山遺跡の現地調査に関連して」	石川卓美	1980
資料⑥	「長州藩財政史談」	兼重慎一	1976
資料⑦	「生産遺跡分布調査報告書」	山口県教育委員会	1982

## 7. 近況報告

秋山先輩との思い出

九州支部 武富(伊藤)敏夫 (S45 経済学部)

1月30日、木山先輩から秋山先輩の訃報の連絡が電話でありました。光市在住の平原先輩のところに逝去の連絡とともに寒中見舞いはがきが届いたとのことでした。その直後我が家にも同様の寒中見舞いはがきが届きました。1月10日、木山先輩から秋山先輩の動静を尋ねられた直後であり、大変な驚きでした。

というのも、昨年12月1日に秋山先輩の携帯電話にかけたところ出ませんので、固定電話に電話すると奥様が出られて「熱が出て寝ていて、午前中は医者に往診に来ていただいている。」とのことでした。翌日お昼ごろ秋山先輩から元気な声で電話をいただきました。早速会いに行こうと畑にある大根・ジャガイモなどの野菜をもってご自宅へ伺いました。玄関口で奥様と3人でお話しましたが、その時の真新しい運動靴を履いて対応された姿が目には焼き付いて離れません。食事を十分摂った方が良くと申し上げたら、「往診の医者も同じことを言っていた」と奥様が話していました。これが秋山先輩と最後になったなんてとても信じられません。

寒中見舞いはがきをいただいた同じ日に、奥様からお礼の電話がありました。山行時の車で送迎や野菜を届けたことのお礼であったのでしょうか。亡くなる3日前に容態が急変しあつという間とのことで、秋山先輩の遺言で49日以降に関係先に連絡するようにということでした。

私がワングルに入部したのは大学1年生の終わり昭和42年1月中旬で、秋山先輩は昭和42年3月卒業、学生時代はほとんど面識や交流がありません。社会人となってからの秋山先輩との出会いは、東京地区でのワングル仲間との親交を開始したことからお話する必要があります。

平成5年4月東京に転勤となり、平成6年から昭和45年卒を中心にワングル仲間では会食をするようになり、口コミで次第に参加する方が増えてきました。秋山先輩が東京に転勤になった頃でしょうか、会合に何度かお誘いしたのですが、時間が取れずなかなか会うことができませんでした。

その後、平成18年頃に会社の情報交換でいろいろとご指導いただき、また、私が九州に出張の折、会食した程度のお付き合いでした。平成20年7月定年退職を契機に福岡に帰ってきてから、ワングルの会合や経済学部同窓会にも積極的に出席するよう要請されました。

平成22年から九州支部が発足し、平成27年まで私が支部長を拝命し、現在のような体制になりました。その間いろいろな相談にもものっていただき、支部運営が円滑に行われことに対して非常に感謝しています。

支部の活動は、新年会・暑気払い・忘年会などの会食と近郊への日帰りや一泊登山です。コロナ禍のため令和2年以降の支部活動は停滞し、令和2年1月25日の新年会が、秋山先輩と会食した最後となりました。また、秋山先輩との山行も平成31年4月27日の黒髪山が最後となりました。平成20年9月から平成31年4月までの秋山先輩と共に出掛けた場所は次の通りです。

平成20年 (9月)大宰府周辺

平成21年 (5月)久住山 (11月)万年山 平成22年 (11月)天山

平成23年 (10月)基山・天拝山 平成24年 (2月)若杉山 (3月)矢筈山・風師山

平成25年 (3月)小説「水神の舞台」を歩く (4月)黒髪山

平成26年 (3月)三池山 (4月)三日月山・立花山 (6月)大船山 (7月)井原山

(10月)英彦山 (11月)蛤岳

平成27年 (2月)可也山 (3月)油山周回、秋月街道と秋月散策 (5月)狛師岩山・鬼ヶ鼻岩  
 (9月)宗像大島オルレ (10月)  
 福智山 (11月)遠見岳  
 平成28年 (3月)志賀島 (4月)土器山、  
 飯盛山・叶嶽 (5月)白口岳・中岳  
 平成29年 (3月)足立山・戸ノ上山  
 平成30年 (3月)発心山  
 平成31年 (4月)黒髪山



秋山先輩のご自宅は私のところから近いので、山行の都度送迎をしました。送迎の車の中でいろいろなお話をしたことが懐かしく思い出されます。

令和4年の九州支部引き受けのOB総会の準備にも非常に熱心で、9月24日のOB総会準備会・ズームミーティングに参加されました。その時は手術も無事終わりお酒が飲まれないと元気よくお話をしていました。その日に秋山先輩から私宛に次のメールが送信されてきましたので紹介します。

【素晴らしい「山大ワングル思い出のアルバム」ありがとうございました 武富敏夫 様

この度は、鳳翔会のホームページに「山大ワングル思い出のアルバム～笑顔がいっぱい、輝いていた青春」と「山大ワングル昭和45年卒同期会の回顧」を掲載して頂いてありがとうございました。64Pと42Pの2大大作を創り上げられた貴兄のご尽力と情熱に敬服するばかりです。山大ワングルの、我ら手探りの時代から脱皮し成長期に力強く邁進された昭和45年同期の皆さんの足跡が克明に記録され、誠に貴重な文献がOB全員に共有できるのは意義深いものがあります。この度のOB総会に合わせて、現在作成中の加藤征治先輩の大作「仰ぎ見て遙か、顧みて一瞬」～WV創設期を振り返ると貴兄の大作は、学生ホール火災のため消失した時代の記録を再現した貴重な宝だと思えます。深く感謝します。

最後に私ごとですが、ご心配をおかけした食道ガンは初期の発見のお陰で、無事内視鏡手術にて治癒し先日退院しました。現在は入院中の絶食で痩せ衰えた体力回復に励んでいます。これから酒無しの人生という難題に直面しています。OB総会に参加できませんが、オンラインミーティングには参加できます。よろしく願います。9月24日午前11時7分 秋山邦雄】

OB総会やワングルのことを、いつも「これをしなければ、あれをしなければ」と大変気にかけて一生懸命取り組んでこられました。それももう卒業です。大変お疲れさまでした。湯布院で開催のOB総会に出席できないことを残念に思われていたようですが、一番悔いが残ったのではないのでしょうか。

福岡に帰って来てからの秋山先輩との思い出は尽きません。ご冥福をお祈りします。

(令和5年2月14日作成)

鳳陽会の会報（経済学部の同窓会誌）を見ていて驚いた。物故者の欄に秋山邦雄さんのお名前がある。年次も同じぐらいだ。先輩だろうか、早速九州支部の同期に連絡を取った。残念なことにご病気でお亡くなりになられたことが分かった。

秋山先輩で思い出すのは、私が3年生で主将だった時にお手紙をいただいたことだ。その直前にOB会報に現役部員の活動状況を書いて報告したのだが、「自分たちの頃と活動内容がまったく変わっていないのはどういうことか？君たちは自ら考えて活動しているのか？そうであれば全く同じなどということはないはずだ。」というお叱りの手紙だった。

自分達なりに、錬成登山や、リーダー養成など、一つ一つの活動の目標・意図は明確であり、意味のあることだと思っていた。それをやり続けることの何がいけないのか、そもそも先輩たちが考え抜いた優れた活動だからこそ今に続いているのではないのか、じゃあどうしろと言うのか・・・などと強い戸惑いを覚えたことを思い出す。その頃は秋に山口で開催する中四国ワンデリング大会（多分秋山先輩たち以来となる山大が主管した中四国大会）の準備に追われつつも、いつもの活動もしっかりやろうと頑張っている時だったので、少し腹も立った。（社会人を経て、今は秋山先輩のおっしゃっている意味はよくわかるようになったが・・・）結局、秋山先輩にどう返事を書いたのか、そもそも返事を出したのかどうかも定かでない。

時は変わり、OB会で秋山先輩にお目にかかる機会も出てきた。同じ姓で、先輩のご自宅と私の実家が近いこともあり（散歩コースだったそうだ）、親しくしていただいた。一度お手紙のことを覚えておられますかと聞いてみたが、全く記憶にない様子であった。あの時先輩の手紙によってうつうつとした気持ちにさせられたのは何だったのかと少し思った。

九州支部がまとめられた追悼集を見ていて、どんな打ち合わせにも必ず自らの提案を準備して臨んでおられたことが書かれていた。やはり大成する人は事に対処するにあたっての心掛けが違うのだなと感心した。昔のあのお手紙と根っこはつながっていたのだと思う。

秋山大先輩のご冥福を心からお祈り申し上げます。

松戸市に住んでいる娘に誘われて、筆者と女房が松戸から矢切の渡しで江戸川を渡り、映画「男はつらいよ」の寅さんで有名になった柴又を散策した。

娘宅からすぐ近くの江戸川沿いの土手道を青空の下、一面に咲き乱れる菜の花などを眺めながら約4km・

約1時間30分歩いて、矢切の渡しに着。徳川幕府は江戸防衛のため江戸川に橋を架けなかったが、対岸に農地を持つ農民の渡船は許されており、これが矢切の渡しである。また、松戸側の近くが伊藤佐千夫の小説「野菊の墓」の舞台となっている。



【一面の菜の花を背に】



【矢切の渡し乗場にて】

渥美清演じる寅さんの映画での冒頭の口上「帝釈天で産湯をつかい、姓は車、名は寅次郎、笠智衆演じる御前様で有名になった柴又帝釈天を参詣した。柴又帝釈天は寛永6年(1629年)に開基した日蓮宗の寺院で、本尊は日蓮上人が彫ったと言われる帝釈天である。境内には柴又帝釈天の中で最古の文化・文政期(1800年頃)に建てられ総檜造りの釈迦堂(開山堂)、昭和30年に建てられ高さ約15mの総檜造りで

関東一の鐘楼と言われる大鐘楼、総檜造りで最奥の頂経の間には滋賀県の伊吹山にあった樹齢約1,500年の南天の木が使われている大宮殿など多くの建物や、開基の日栄上人が見事な枝ぶりの松とその下に霊泉が湧いているのを見つけたとされている瑞龍の松と御神水などがある。



【柴又帝釈天の二天門】



【柴又帝釈天の大鐘楼】

柴又帝釈天の境内を出て、帝釈天の参道を歩く。京成電鉄金町線の柴又駅までの間が参道で、大正初期の古い佇まいの木造商店街。筆者達がたまたま昼食に天重、天ぶらそば、ざるそばが気に入った「とらや」は「男はつらいよ」の第1作から第4作まで、寅さんの実家としてロケに使われた店で、現在も寅さんが寝た二階に上がる階段がそのまま保存されている。ロケ当時の屋号は「柴又屋」だったが平成元年の建物建て替え工事の直前に「とらや」に変えられたそうである。寅さんや倍賞千恵子演じる寅さんの妹さくらも食べた草だんごも販売されており、筆者達も昼食の後に食べた。また、「男はつらいよ」寅さんシリーズの撮影の際、休憩や衣装替えに部屋を貸していたのがきっかけで、寅さんシリーズの第5作目以降では寅さんの実家としてセットされロケに使われたという高木屋老舗がある。筆者達はここでも、草だんごを買い店の前のベンチに座り食べていると、店の人がお茶を出してくれた。その他に、江戸時代の安永年間(1772~1781年)創業という

川魚料理店、天明年間(1781~1789年)創業という料亭などがあり、石田だるま店、だるまやと縁起物のだるま専門店もある。



【寅さんが通った帝釈天参道の木造商店街】



【寅さんの実家・とらや】

ガダルカナル。

ご存知でしょうか。西太平洋の島。先の大戦で日本軍とアメリカ軍が死闘を展開した島です。歴史に残る戦場取材したい。私は現地に向かいました。

ガダルカナルは遠い。成田空港から飛行機でニューギニアへ。そこから飛行機を乗り継ぎ、ようやく到着しました。

暗い雲。湿気と熱気。未開の山。深々としたジャングル。ここがガダルカナルか。

現地を訪れ、驚きました。野戦高射砲が空をにらんでいるではありませんか。「なんだ。これは」。砲身に近寄りました。刻印。「大阪陸軍造兵廠 昭和十六年製」。日本軍の高射砲なのです。第2次世界大戦の戦場が時を超え、凍結しているかのようでした。

1942年。日本軍はこの島を占領。飛行基地を建設しました。その直後、アメリカ軍が島に上陸。飛行基地を奪取します。ここから日米両軍が総力を投じた戦闘が始まるのです。

日本軍の兵力は約3万6千人。当初、日本軍が優勢でした。しかし、日本軍には弱点がありました。補給路の確保です。輸送船で兵器や砲弾、食糧、医薬品を運ぼうとするのですが、制空権はアメリカ軍が支配しています。島に近づく輸送船の大半は撃沈されました。島西部のタサファロング。日本軍の補給地点です。浅瀬に乗り上げた輸送船「鬼怒川丸」の船体の一部が波に洗われ、無残な姿をさらしていました。補給を絶たれた日本軍兵士は飢えに苦しみます。餓死する者もいたのです。日本軍、撤退。死者1万9千人……。

私は東京でガダルカナルから生還した元兵士に会ったことがあります。凄まじい戦場の体験を聴きました。彼はやせ衰え、餓死する寸前でした。しかし、島の沖へ救出に現れた潜水艦に救われました。潜水艦の若い乗組員がミカンの缶詰を差し出したそうです。彼はしみじみと述懐しました。

「この世の中にこんなにおいしいものがあるのか」

私はガダルカナルに8日間、滞在。かつての戦場取材しました。アメリカ軍の水陸両用軍事車両が野にさらされ、自然と同化しつつありました。日本軍が最後まで死守した激戦地には慰霊碑が建っています。

刻まれた文字を忘れることができません。

「撃つに弾なく 食うに糧(かて)なし まさに地獄の戦場なり」



## 65回目の講演会活動

山口支部 S52 経済 古谷眞之助

これまでOB通信の中で、何度か自分の趣味を紹介してきた。その主なものはグライダーであり、萩往還ガイドであったが、これ以外に、リタイアしてから注力してきたものの一つに講演会活動がある。

初めて講演会を行ったのは、今から20年近く前の2005年11月6日、山口県立博物館で行ったもので、その時のテーマは「山口県の航空史あれこれ」というものだった。県内航空史の中から、ちょっと目を引く話題を取り上げて1時間ばかり話をさせて貰った。例えば、周南市須々万の山奥に、ライト兄弟に先立つこと17年前の明治19年、自作の滑空機を作って飛ぼうとした三家本鶴蔵なる人物がいたこと（もちろん失敗したが）。また、戦前、防府市にはグライダー製作会社があって多くの滑空機を生産していたこと。昭和22年、オーストラリアのカンタス航空第一便は、羽田ではなく防府市の防府飛行場（現在の自衛隊防府基地）に飛来したこと。かのマリリン・モンローが昭和29年、岩国飛行場に降り立ったこと、等である。

そもそも、なぜ県立博物館から講演を依頼されたかということ、航空黎明期に活躍した山口県柳井市出身の坂本壽一の生い立ち、渡米、帰国後の活躍などを調べているうちに、彼が宮野の桜富練兵場から防府方面に飛行した際、エンジントラブルの為に現在の山口中央高校のある敷地付近（当時は田圃だった）に墜落し、その時に無傷で残ったプロペラを博物館に寄贈したことを知り、博物館で現物を見せていただいたことがきっかけとなって、講演会開催に繋がったようなわけなのである。

さて、これを書いている7月5日現在で、講演会活動は、大小合わせて通算65回になった。手元の記録では聴講者総数はざっと3,000名である。講演テーマは、ガイドをしている関係で萩往還関連のものが最も多く、これまで26回。山口市内での依頼が多いのは当然としても、萩、下松、防府、下関、それに東京でも1度講演させていただいている。演題は「萩往還の魅力」「イラストで迎える萩往還」「大河ドラマと萩往還」というようなものである。続いて多いのが航空史関係の11回。特に今年6月14日には、山口大学工学部内のNPO法人応用斜面工学研究会から、総会後にはいつもとは毛並みの違った話題を聞きたいということで、是非グライダーに関する講演を、という依頼があって「防府、USA、オーストラリア、NZの空を翔ぶ」というテーマで、私がこれまで飛んできた海外でのフライトを中心にお話しさせていただいた。友人のそのまた友人を通じての依頼だった。実は、いよいよ大学から講演依頼が来たか、ということで張り切って工学部まで行ったのだが、会場におられたのは担当教授を含む研究会の理事4名のみで、約100名の会員にはZoomで聴講いただくという形式だった。Zoomでの講演会は初めての経験で、やはり聞き手の表情が見えなくては、反応もうかがえず、何とも話しにくかった。ただ、久しぶりに大好きなグライダーの話が存分にできて、とても楽しいものだった。残りの28回は、歴史一般をテーマとして講演してきている。例えば、私の居住する山口市大内地区の歴史（地元中学生向けに毎年行っている）、あるいは幕末史関連テーマとしては「ドイツ夫人を娶った長州の三先人」「晋作の懐刀・福田侠平」「長井雅楽とその妻子」「栗山孝庵と女囚お美濃」「伊藤博文の英語力」「長州藩海軍について」があり、その他「三田尻の製塩業」「山口軽便鉄道」などもテーマとしている。



講演時間は基本的に1時間半で、パワーポイントで通常60~70枚程度シートを作成して講演している。このパワーポイントというのは実に便利なもので、目の前のスクリーンやパソコン画面に講演内容の年代も登場人物氏名も事象も映し出されるから、すべて頭の中に入れておいて話す必要はない。むしろ話の要点をしっかり掴んでおいて話の流れをスムーズにすれば十分である。写真はもちろん、動画も取り入れることが出来るから、それに従って話を進めて行けばよいわけで、実に楽である。

学生の頃、大学教授がノートもなく、とにかく黒板にひたすら何かをどんどん書いて話を展開していくのを「すごいなあ」と感心していたものだが、あの難しさに比べれば、正直なところ余裕を持って話ができる。もちろん、その分、事前に作成するパワーポイントのシート作成には十分な時間をかける必要がある。ただ、そうしておけば、聴講される方も単に話だけではなく、写真、図表、地図、イラスト、動画などが加わって、下手な話でもそれなりに楽しく分かりやすく聞いていただけるようである。

これからも依頼がある限り、どこへでも出かけて行って、自分の関心あること、好きなことを話していけたらと思っている。当面、あと5年、講演100回を目指しましょう！（2023.7.5 記）

山口大学ワンダーフォーゲル部を創り上げた秋山邦雄氏のご逝去に接し哀悼の意をこめ思い出の山を記す

水縄山地は福岡県南部、筑後川の南に位置する。耳納とも書かれる。北側は急な崖で、屏風山の異名もある。北麓は扇状地になっており、その地にある吉井・田主丸などは柿、葡萄、苗木などの産地として知られる。最高点は鷹取山(802m)、ハンググライダーの飛翔地点でもある。私は近くにある工業高校で残り8年、定年退職まで勤務した。JR久大本線、田主丸・吉井行き西鉄バス、あるいは車で移動したのであるが、四季折々すばらしい山の眺めを味わった。九州支部はOB総会主催担当2回目、2008年開催場所を太宰府に選んだ。太宰府周辺の山の調査をすることになって龍支部長が呼びかけをしたところ、たまたまその日に来ることができたのは秋山さんと私、二人だけであった。二人で、ある程度登って休息を取っている時に「君が勤務している工業高校の生徒諸君に耳納の山を歩かせて山をきれいにしてくれ。」と言われた。近くにあった蔓や雑草のからまる木を見て、「ご覧の通り、こんな状態では山全体に良くない。」その思いは共感できたが、そんな権限はないと丁重にお断りした。後で教えてもらったことだが、会社に就職されて最初、自宅からバスに乗って吉井まで通勤だったとのこと。耳納の山々は常日頃、気になっておられたに違いない。またこの太宰府大会では、岡田先輩を紹介して下さった。「本園君はこういう方面は好きだろう。」岡田さんの奥様は芸術家。NHKでも取り上げられている。」岡田さんご自身も彫刻をされているとのこと。翌年の干支、大小2つの木彫りを送っていただいた。初めて送られてきた寅の可愛らしい姿は、えもいえぬ曲線と素朴な材料から生まれ出ている。家の中で寅を飾ると、母はかわいいと声をあげた。干支の贈物は岡田さんが亡くなるまで続いた。

黒髪山(516m)は佐賀県西部、有田町と武雄市の境にある。秋山さんは小学校時代の恩師の言葉「高くはないが、魅力的な山」を紹介された。2013年4月13日、秋山さんの案内を聞きながら私達参加メンバーは好天の中、山頂では眺めの良い露岩でゆっくりと昼食を取った。やっと来た美しい春を満喫した。一方、少し驚いたのは近くにあったそびえ立っている二つの大きな岩である。雄岩・雌岩と名付けられ何か生き物のような迫力があつた。入山した時の雰囲気とは全く違う。その時の皆さんと一緒に撮ってもらった写真は忘れられない風景である。どうしてここまで人を惹きつけるのか。改めて考えさせられた山であった。



朝倉三連水車と耳納連山



黒髪山・乳待坊展望台から雄岩・雌岩

2023年5月21日(日)に文藝春秋・古林康彦(2009年)が選定している日本百低山のうち千葉県にある3山の一つで南房総市にある富山(とみさん)349mに娘、3歳の孫娘と一緒に新緑のさわやかな天候の下、登頂した。

北習志野駅発8:13、JR内房線岩井駅10:23着。長旅の後、駅のホームを渡る陸橋から双耳峰(2つの峰からなる山)の富山を望み心はやる。陽が射し暑い中、駅から登山口まで歩く途中、出会った登山姿の1人、さらに2人連れの人に富山に登ったのかと問うと登った、登山中は木立で涼しいとのこと。随分早く登ったのだと感心。登山口の横にある真言宗智山派福満寺に安全登山を願い、岩井案内人の会により自由にお使い下さい、と設置されていた竹の杖を孫と娘が1本ずつ借りて、筆者は2本の登山用ステッキで、いよいよ11:44登山開始。

木立の下、涼しくなり助かる。山道が時々コンクリート道になり、前日の雨で少しの間滑りやすくなっていた。それでも孫は杖をうまく使ってどんどん上って行き、筆者は後を追いかける。11:52、一合目に着。12:30広場に着き、椅子に腰掛けてしばらく休憩。12:59、七合目にして初めて樹間から遠方の山々を望んだ。神社の参道のような石段を上ると、13:18、南峰342mに到着。しかし、小さな広場に崩れかけた観音堂があるだけで周りは樹木で覆われ、眺望は全くなし。

少しの間下った後は、ほぼ平坦な道を進んだ。13:29、「愛の鐘」に到着。登山道の脇に鐘が吊り下げられている。解説文によると、平成11年(1999年)に皇太子ご夫妻(現、天皇・皇后)が富山に登頂され、富山は「愛の山」として知られるようになり、地元の人が「愛の鐘」を設置したという。また、その後方には樹齢300年以上と推定され、樹高28m・幹周り3.43mの杉の巨木がある。この杉は古くから縁結びにご利益があると親しまれていると言う。

13:32、東屋に着。南房総の山々・街並みと海を一望出来た。ベンチに座り遠方を眺めながら、娘手作りのむすび・卵焼きなどで昼食。また、ここは里見八犬士終焉の地とされている。里見八犬士は江戸時代後期に曲亭(滝沢)馬琴により28年を費やして書かれた長編伝奇小説・南総里見八犬伝にある。八犬伝は室町時代後期を舞台に、安房里見家の姫(伏姫)と神犬八房の因縁によって結ばれた八人の若者・八犬士を主人公とし、いずれも犬の字を含む名字を持つ八犬士は、それぞれに仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌の文字のある数珠の玉を持ち、牡丹の形の痣が身体のどこかにある。関八州の各地で生まれた八人はそれぞれに辛苦を嘗めながら、里見家の再興のために関東管領・許我公方連合軍との戦いに活躍する。再興を果たした八犬士は伏姫が籠穴で自害した富山に隠棲し、その後は神仏となって姿を消したそうである。

【八犬士の仁・義・・・の東屋にて】



しばらく平坦な道の後、急な段差道となり、上り切ると金毘羅宮がある。14:38、北峰山頂849m登頂。眺望があり、感嘆。山頂手前に十一州一覽處と刻まれた石柱があったが、室町時代の関東管領が政務を統轄した10か国すなわち関八州の諸国に伊豆、甲斐を加え、残り1か国はどこなのだろうか。いずれにしても、今日の天候では眺望があると言っても、11か国は見えないようである。

山頂横の広場に行き、木製の古い展望台で周りの柵は危険触らないで!と、表示されている展望台上り、360度の眺望を楽しんだ。南房総の街並みと海、東京湾観音、房総半島南端の館山、伊豆半島などが見えた。富士山方向の標識もあったが、残念ながら富士山は見えず。



【展望台より左遠方に房総半島南端の館山を望む】



【展望台より遠方に伊豆半島を望む】

遅くなり、来た道を急いで引き返す。16:38、一合目に着。16:50、娘と孫が腹満寺で竹の杖を返却。岩井駅まで歩いて、電車に乗り、すっかり日が暮れ20:00頃帰宅。

今年6月8～12日に海南島に遊びに行った。旧友 O 女史が高校国語教師を退職後、4年前に海南師範大学の日本語教師となり無事勤めを終え帰国することになったので、その前に会いに行き、観光案内をしてもらおうと計画された。当初の計画は女性3人のみであったが、O女史のご主人含めて男性5人が加わり8人のグループ旅行となった。メンバーのS女史は中国留学経験もあり某学校にて日本人対象に中国語を教えていて中国通だったので、ビザ無しでの中国本土旅行を香港経由、海南島の旅行社を利用、5人以上との条件を見つけてきて、また航空会社、入管手続き等を全て対応してくれスムーズに入出国が出来て大いに助かった。

海南島での初日は、大学キャンパス内の O 女史宅訪問、キャンパスの校舎、体育館、グラウンド等を見学し、学食で昼食を取った。その後 O 女史のお別れ会が実施され彼女の講演、S女史の日本語学校への留学案内説明、学生と日本人との交流会があり、大学生40数名が参加した。交流会では抹茶を提供する事になっていたの、Y女史が袴を着てお茶を点てた。私は茶道の雰囲気を出すため、書初にて作成した掛軸を持参して会場に飾り、日本語でお点前を説明した。2人の学生には正式の作法でお出しして、残りの方は2-3人分をお茶碗で点てて紙コップでお出しした。大学生皆さんが希望したので、50数人分を必死に作り非常に疲れたが、お代わりする学生もいて楽しい時間を過ごすことが出来たし、老人大学校にて茶道、書道を勉強していて良かったと思った。



2日目はN氏の教え子呉さんが火山公園、市場、ライチ農場見学を案内してくれた。N氏も高校国語教師をしており、20数年前に上海の大学に派遣され日本語教師をしていた。今回恩師が海南島に来る事を知り、呉さん他二人が会いに来たとのこと。(上海、大連から) 呉さんのライチ農場では新鮮な大きいライチ王を腹いっぱい食べさせて頂き、夕食は彼の家の庭で郷土料理をご馳走してくれた。アルコールが入り酔ってくると日本人チームは「北国の春」を日本語で歌い、中国人チームは中国語で歌い、テレサテンの「時の流れに身をまかせ」をそれぞれ自国語で歌う、歌合戦で大いに盛り上がった。





海南島の蜥蜴の尾長し岩を飛ぶ

3日目は海水浴場のビーチ、海浜公園、ゆっくりくつろげる図書館を見て、流石に中国のハワイと言われるだけのリゾート地であると実感した。その後古い町並みの騎楼老街、海口博物館等を観光し、特に五公祠では北宋の大文豪蘇軾(蘇東坡)の廟を訪問し、彼にとって3回目の左遷地であることを知り漢詩の勉強をもう少し深堀せねばと考えた。



香薫取る蘇軾の祠に捧げけり

香港経由だった為実質3日間の旅行ではあったが、中国語堪能の仲間がいて日本語の通じる旅行であったと共に、ツアーでは経験出来ない貴重な中国・中国人との触れ合いの旅であったと非常に満足している。

#### 旅行して感じた中国状況

- ・旅行中に日本人旅行者とはまったく出会わなかった。  
中国への旅行はまだ難しい？ ビザを取るのも時間がかかるようである。  
知り合いの中国人も帰国、旅行はひかえているようである。
- ・街中では皆マスクをしていない。我々日本人のみがマスクなので旅行者とすぐわかってしまう。
- ・お金の支払いが困難であった。

香港空港ではカード支払い、香港ドル紙幣、海南島の大手土産物屋ではカード支払い、中国人民元紙幣は使用可能であるが、海南島の普通の店などは使用不可であった。現地では携帯電話による支払いが通常の形態であり、老人でも携帯電話による支払いが出来ない人は若い人に依頼しないと難しい状況だった。我々は現地の〇女史に頼み最終日に清算してもらった。ホテルのコインランドリーも使用できず、やむをえず手洗いになった。

2023. 7. 20記

## 仲間とつながる喜び

山口支部 斎藤昌彦 (S60 農)

前回の通信に同期会(昭和 60 年卒)を行ったことを書きました。その同期会をきっかけに同期の LINE グループができていきなり、時間や場所を越えて、大学時代の仲間とのつながりが始まりました。この LINE グループの中心人物は、「タイミーマスターマサ!」さんです。直近の話題は、タイミーの HP で仮名\*新田さんで紹介されたことでしょう。

ご本人も、LINE トークの中で「タイミーのワーカーは 450 万人ですが、私はなんと 4 番目の勤務回数之多さだそうです。レベルも上限になりました。」と豪語されていました。ちなみにタイミーの HP では、『「退職後も社会とのつながりを感じたい!」 3 年間で 700 回以上もタイミーを利用したワーカーさんの意外な活用方法』で紹介されています。顔写真も出ていますので、私たち同期周辺の先輩、後輩の方々なら、すぐに誰だかおわかりになると思います。HP の内容は、しっかりしたもので、私のようなリタイア経験者には参考になるものでした。今後、私もタイミー考えてみるかな?

さて、この「タイミーマスターマサ!」さん、いえ、新田さん(仮名)の LINE トークで盛り上がったのが、10 日間の北海道旅行を LINE トークで伝えてきてくれたことです。以下にその時の LINE トークを実況中継でお送りします。なお、個人の名誉のために名字を隠したり、一部変更させていただきましたので、ご了承ください。

～北海道中膝栗毛～タイミーな北海道中記～

・2023/06/30(金)

16:40 新田 タイミーワーカーも休みます

16:40 新田 10 日くらい北海道です

16:41 新田 先ずは、エスコンフィールド

17:34 万太郎 ええのう

・2023/07/01(土)

21:32 新田 北海道でも山口からの中継見てました

21:33 新田 被害者への保険支払い宜しくお願い致します

21:37 博 保険金任せてください!

・2023/07/02(日)

11:15 新田 返せ北方領土!

11:34 万太郎 “大雪トムラウシの後行ったのう。返せほんまにプーチン”

11:56 とじま “新田は北海道ツアー満喫中、どこからどこまで制覇予定かな?移動と泊まりはどうしてる?あと、誰とかな”

12:13 新田 “勿論気ままな 1 人です。ホテルも行く場所も、思いつき!タイミーワーカーですから”

12:14 新田 しかし、北海道は広いわ

12:24 万太郎 サロベツ原野行ってくれー

12:25 万太郎 “ヒグマに喰われんように 鈴やら笛やらふいで”

12:26 新田 “鹿、熊、地震、津波、スピード違反の車 リスクだらけだ”

12:27 Yaho 車で回ってるの?それとも R&P で?

12:32 新田 “明後日くらいに、最北端に行くかな?サロベツもいいなー”

12:33 新田 自家用車です

12:34 新田 “R&P 笑わせるな”

12:34 新田 札幌、小樽など街中には、行かないです

12:35 Yaho どうせなら寝袋持参がオモロイかと

12:35 新田 “まあ、有りすぎて、また来年来ます。とても見きれない”

12:36 新田 寝袋、布団などは、すべてつみこんであります

12:36 新田 “車中泊は、出来るが やはりホテルに泊まっています”

12:37 新田 もう忙しいから、以上で、報告終了

12:37 新田 でわ  
 ・2023/07/04(火)

18:26 万太郎 ひぐまにたべられんようにねえ

18:36 Yaho 知床遊覧船は、まだどこかやってんの？あまり乗りたくはないだろうが、  
 ・2023/07/05(水)

12:42 圭二郎 懐かしいね。(幸福駅の)切符買った

15:14 圭二郎 南下した？

15:20 圭二郎 自家用車orレンタカー？

15:21 新田 自家用車です

15:22 圭二郎 北海道まではフェリーで移動したの？

15:22 新田 はい

15:28 圭二郎 フェリー片道3万位？

15:41 新田 運転中なので……

15:49 圭二郎 はい、気をつけて

20:12 新田 “函館、青森は12000円だな 大洗、苫小牧は4万位？使ったが株主優待もあったから詳細不明？”

20:14 新田 道内の運転考えると、大洗から苫小牧が、絶対良い

21:32 圭二郎 情報有難うねー

22:32 義文 “相当走ってるよね。1万キロ？”  
 ・2023/07/06(木)

07:21 新田 2000kmくらいです

10:22 義文 それでも日本列島端から端までの距離。

12:47 齊藤 通信の原稿テーマは、自由ですので、北海道旅行の件とか、タイミーの件を書いて送って  
 くれませんか？

13:04 新田 “いや ちょっと”

13:06 新田 “今、日経平均630円↓で、それどころじゃないわ 有珠山行ってる場合じゃないわ、  
 株式市場が噴火だ”

14:38 新田 “勿論見るだけ 宿泊しませーん”

14:41 Yaho 洞爺湖？

14:43 新田 へい

15:09 齊藤 残念です。

15:59 義文 “ここに乘ってる言葉をコピペしたら 代筆齋藤で書けるんじゃない？ タイミーな北海道中記という題。”

16:03 Yaho 北海道中膝栗毛。オチは株価も大噴火

18:19 新田 “稚内など、北はあきらめて 来年にします”

18:19 新田 函館に2泊します  
 ・2023/07/08(土)

07:21 新田 “皆さんお騒がせいたしました。本日帰京いたします。函館発810です。また、来年来  
 まーず”

07:22 新田 “函館 天気曇 気温21.5℃”

07:30 義文 “報告楽しかったです。旅する気分になりました。ありがとうございました。次の旅日記  
 もお願いしま。”

07:48 万太郎 “よろしくー 楽しかった”

以上、長くなりましたが、こんな感じのノリで仲間とつながっています。これも山大ワンダーフォーゲル部が作ってくれた縁です。皆さんも古い仲間とつながってみませんか？

2023年6月26日(月)に娘と4歳になった孫娘と一緒に、神奈川県にある日本で最初に開かれた海水浴場となった大磯海水浴場に行った後、湘南平・標高約180mに歩いて登頂した。

東葉高速北習志野駅発 10:28、東京メトロ銀座線日本橋駅、JR 東海道本線新橋駅乗換え、大磯駅 12:31 着。海鮮料理で昼食。漁港の向こうが大磯海水浴場とのことで行った。広大な砂浜が広がり、遠浅になっている。孫は海水着を持ってきていないので、ハダカンボになって波打ち際を走り回って大喜び。



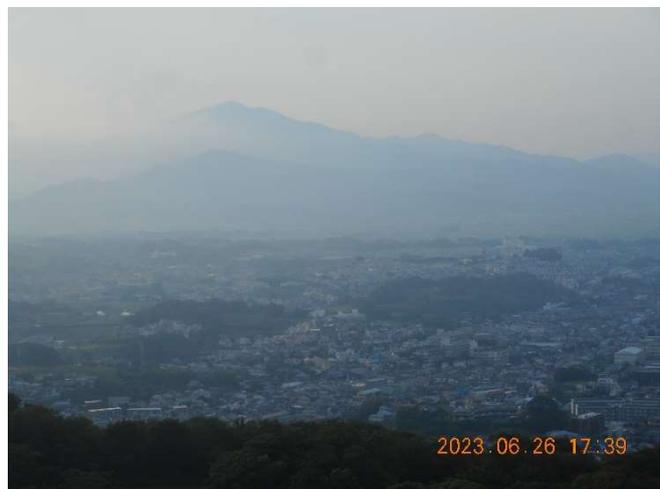
【波打ち際を走り回る孫】

湘南平登山口へ向けて、旧東海道松並木(化粧坂松並木)を歩く。15:34 高来神社の参道に着。湘南平の山容を望む。高来神社本堂の横の石段を上ると登山口。15:40、いよいよ登山開始。直ぐに、男坂と女坂に別れている。遅くなっているので、距離が短い男坂を選ぶ。16:04 男坂と女坂が合流。長い石段の後、緩やかに上ると16:15、高麗山 167m 山頂。高来神社上宮造営所跡がある。奈良時代のころ朝鮮の高句麗は唐・新羅に滅ぼされ、日本に逃れた高句麗王族のひとり高麗若光は一族をつれて海を渡り大磯に上陸し、日本に帰化して化粧坂あたりに住み、大陸の文化をもたらしたという。また、高句麗の人達が住んでいたことから、この地が高麗とよばれるようになったとのこと。

先を急いだ。なだらかな上り下りのある尾根道を進む。見事な青・濃青・白・赤・黄色などの紫陽花の群生があり、娘は感嘆の声。17:01、浅間山 181m 山頂。山頂は木立に囲まれ眺望がない。鳥居と小さな祠がある。江戸時代に富士山が見えるこの山頂に浅間社をまつり、お参りすることで願いが富士山に通じると信仰を集めたそうである。なんと現在、国土地理院の一等三角点がある。緩やかな上りから、階段を上ると、湘南平山頂手前の赤色のテレビ塔が見え、着いたかと安どのため息。17:18、湘南平山頂約180mに着。一帯は高麗山公園となっており、レストハウス、展望台、ベンチなどがある。また、駐車場があり車で上れ、バス便もある。

展望台の最上階・4階から、南には大磯と海岸線、東には鎌倉方面と江の島、さらに三浦半島、北には丹沢の山々、西には小田原の街並と箱根の山々と360度の眺望があるという。また、天気がよいと富士山も望めるといふが、今日は残念ながら雲の中。

これまで登山中には1人として出会わなかったが、展望台とその近辺に5~6名位の見物人がいた。閉店となった展望台レストランの入口に掲示されたバス時刻によると最終便を過ぎている。ここにいる人達は駐車場に見える数台の車で上ったのだろう。相当遅くなってしまっていたが娘と相談し、タクシー会社への依頼電話



【丹沢の山々・最高峰は大山】

を止め、歩いて下山することとし、展望台から大磯駅への最短の道を下山開始。途中、樹木でうす暗くなっても、どんどん下る娘にヘッドランプ2個と懐中電灯1個を持参していると伝えた。下山して初めて、いつもの山頂での登頂記念写真の撮影を忘れたことと持参したミカンを食べなかったことに気付いた。せめてもと、山側を背に孫と一緒に写真撮影をした。大磯駅からは往路とほぼ同じ経路とした。娘の希望により横浜駅から津田沼駅まではグリーン車の2階席に乗り、少しリッチな気分での夜の間窓を見ながら、筆者はサンドイッチと缶ビール。孫と娘はむすびと鶏のから揚げ弁当。9時頃帰宅。



【模擬登頂記念写真】

## 近況報告 この一年半余り

東京支部 松永 烈 (S49 Ⅰ)

一昨年の近況報告で、65歳で第二の職場を定年退職した際、70歳までにやりたい①日本百名山完登、②マラソンのサブフォー再達成、③四国八十八カ所と奥の細道完歩(走)、④毎年夫婦での海外旅行の4つを設定したが、コロナ禍で達成するのが遅れているという報告をしました。今回は近況報告として①に絞ってその後の状況をお伝えします。

2020年末時点で8座が残っていた百名山については、2021年には8月末に城戸夫婦と奥穂高岳へ、9月に古谷(啓)・つくばの友人と乗鞍岳と御嶽山へ、翌2022年の5月には九州の霧島・高千穂、10月由布院でのOB会後に阿蘇高岳(何れも単独)に登り、富士山、恵那山、美ヶ原の3つを残すだけとなりました。富士山については城戸夫婦・古谷(啓)と8月下旬に開催される「富士山峯入り修行」に参加し、村山古道を辿って登頂後、富士吉田に下山する予定です。残る恵那山、美ヶ原についても今年中に登り、百名山の完登を果たせればと思っています。

本稿を書いている時に、朝日新聞の茨城版(7/13)に「いくつもの病気を抱えながら、75歳で「日本百高山」を踏破し、「日本百高山完全単独踏破」という本を出版した」という記事が掲載されました。面白そうだなとヤマレコの山のランキングで百高山のリストを調べてみましたが、標高2,667mの南アルプス新蛇抜山が100位ということからも分かるように、全てが中部山岳地域の山々なのは致し方ありませんが、山域等に配慮したためか、この山が・・・と思われるものも含まれていました。当方の百名山後を考える上で余り参考になりそうもないのは残念です。

余談になりますが、ヤマレコ>山のデータ>山のランキングには色々面白いデータが掲載されています。暇なときに覗いてみると面白いですよ。例えば、人気の山ランキング(すべての山)この一年のトップテンは、高尾山、城山、富士山、金剛山、景信山、陣場山、大山、筑波山、六甲山、御岳山と東京支部の山行でお馴染みの山々も並んでいます。

さて本題の百名山完登後の話に戻ります。これ(正確には産総研で地熱開発に携わった2004年)まで現場実験や調査のために、北海道、東北、中部、四国、九州へ出かける機会があり、登ってみたいと思った山も幾つかあります。これからは機会をとらえてそのような山々に行ってみたいと考えています。皆さんも如何ですか？

## 【近況報告：新宿 幸西ワインと料理の夕べ】

東京支部 昭51年卒 小林照明

7月15日（土曜）、昭56年卒 幸西ワイナリーのワインと洋食を堪能できる塩尻市 観光課主催の「新宿 塩尻ワインセミナー」に参加してきたので報告します。

主催：長野県塩尻市  
協力：レストラン  
はやしや

塩尻ワインセミナー



近年塩尻市内で注目を浴びているブドウ生産地「片丘」にある「丘の上 幸西ワイナリー」のオーナー 幸西義治氏をお招きして、塩尻ワインセミナーを開催します。幸西ワイナリーの魅力溢れるワインと老舗洋食店「レストランはやしや」による塩尻食材のマリアージュをお楽しみいただけます。

日時：7/15（土）18:00～20:00  
参加費：5,000円 定員：40名  
会場：サンパークホール（東京都新宿区 新宿3-22-12 新宿サンパークビル本館7F）



丘の上 幸西ワイナリー  
オーナー  
幸西 義治氏

※申し込み多数の場合は抽選となります。

当日は、あいにくと同じ新宿で開催するYUW 東京支部の「暑気払い」日時と重なってしまっており、幸西さんからは「暑気払い」3日前に、遠慮がちに東京支部の面々へ左図の「塩尻ワインセミナー」案内メールが届いた。そのメールには、定員40名にまだ満たない状況とのこと。せっかく幸西さんが新宿に来るというのに、東京支部ワングルとして協力しないわけにはいかないだろう。

ここは小林の出番と決め、早速 秋山幹事へ連絡し、日時が重なった東京支部「暑気払い」への参加をやめ「塩尻ワインセミナー」に小林は参加したいと伝えた。彼からは「裏切り者（冗談 笑）と叱責」を受けながらも、鞍替え参加の許可（彼によろしくね！）を得たのである。

ただ、本当のところは、普段の女房への罪滅ぼしとして幸西ワインと洋食と一緒に堪能することであった。

また、幸西さんには、この秋の10月14日（土曜）に開催する関東工学部OB会での講演を、私からお願いした恩義もあった。

当日は、幸西さんが気遣ってくれたのか、我々夫婦は最前列の特等席に案内された。ワインセミナーでは、塩尻市長と幸西さんによる塩尻市の紹介と幸西ワインのプレゼンテーションから始まり「新宿 はやしや」のシェフによる6種類の幸西ワインそれぞれにマッチングする料理が説明とともに次々とサーブされた。ワインとよく合っておりシェフの説明も良かった。会場は盛況で多くのワイン女性が集まって、私が知らないワイン専門語があちこちで飛び交っていた。幸西さんも女性ファンに囲まれて嬉しそうであった。同時刻に新宿ライオンでの「暑気払い」に参加している皆さんには申し訳ないと思いながらも、幸西ワインと料理を十分に堪能できた楽しい一日となったのである。

幸西ワイナリーからは6種類のワインが次図に示すように、白ワイン「シャルドネ、ソーヴィニオンブ

ラン、シャルドネ樽熟成」と、赤ワイン「メルロー、カベルネフラン、カベルネソーヴィニオン」が順番に提供された。私と女房は「5.カベルネフラン」が好きになり、次は塩尻に行こうと話をしている。

塩尻には、15ものワイナリーがあるワインの町とのことで、幸西ワイナリーは「穂高」がよく見える塩尻駅東側の丘の上に位置する（図参照）。幸西ワイナリーの詳細は、10月14日（土曜）に開催する関東工学部OB会（常盤工業会）のオンライン講演会の視聴をお勧めする（各OB会から連絡ある。要 事前登録）。  
<https://tokiwa-k.sakura.ne.jp/>

ご提供ワイン  
(すべて丘の上幸西ワイナリー)

- 1.シャルドネ2022  
すっきりとした酸味の辛口白ワイン
- 2.ソーヴィニオン・ブラン2022  
フルーティーな辛口白ワイン
- 3.シャルドネ2021 フレンチオーク樽熟成  
オーク材本来の甘味とワインそのものが持つ  
フルーティーさが特徴の白ワイン
- 4.メルロ2022  
なめらかな辛口赤ワイン
- 5.カベルネ・フラン2022  
ソフトでフルーティーな辛口赤ワイン
- 6.カベルネ・ソーヴィニオン2022  
軽やかな味わいの辛口赤ワイン





## 8. 現役報告

### ワンダーフォーゲル部の近況について

鳳凰会事務局長 坂本新

#### 始めに

2020年代のワンダーフォーゲル部は、常にコロナ禍と共にありました。特に、一つのテントに泊まったりコンロを囲んで食事をしたりするワンダーフォーゲル部の活動は「感染症対策」とは相性が悪く、多くのイベントが中止を余儀なくされました。2023年に入ると、活動に係る規制は無くなり、コロナ禍以前のように活動することが可能となりました。そのため、今年は4年ぶりの春合宿、4年ぶりの中国四国合同ワンデリングなど、今まで開催できなかったイベントを行うことができました。ようやく本来のワンダーフォーゲル部の活動を取り戻すことができ、大変嬉しく思います。

#### 新入部員について

新入生の勧誘にあたり、大学のイベント「新入生歓迎フェスティバル」での勧誘やSNSを活用した情報発信を行いました。その結果、新入生14名を迎えることができました。高校のワンダーフォーゲル部出身者や登山経験者も複数人おり、非常に頼もしく思っております。これでワンダーフォーゲル部の部員は総勢45名になりました。

#### 春合宿について

今年は4年ぶりとなる春合宿を開催することができました。今年は鹿児島県の屋久島に行き、荒川登山口から縄文杉までトレッキングを行ったほか、安房川でカヤック体験を行いました。屋久島の雄大な自然と触れ合い、心身ともにリフレッシュすることができました。

#### 今後の予定

現在、海浜合宿と夏合宿の開催に向けて準備を行っています。海浜合宿については、今年も山口県立大学ワンダーフォーゲル部と合同で行う予定です。現在、8月中旬の開催に向けて調整を進めています。夏合宿については、8月の下旬ごろに長野県と山梨県にまたがるハケ岳で行います。今年は、去年の夏合宿では行うことができなかった山中泊を行う予定です。去年の木曾駒ヶ岳登山の経験を生かして、安全に留意しつつ登頂したいと思えます。

また、今年の中四国の国立大学ワンダーフォーゲル部が集まり交流する「中四国合同ワンデリング」が開催されることになりました。他大学と交流することができる貴重な機会ですので、積極的に参加し親睦を深めていきたいと思えます。

#### 最後に

合宿の開催や日々の活動にあたり、OB会の皆様方から多大なるご支援・ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。この場をお借りしてOB・OGの皆様にご挨拶申し上げます。



## (1) OB会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後OB通信の発送等OB会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意ください。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

## 【OB会費の納入状況についての問い合わせ先】

次頁・会長宛お問い合わせ下さい。

会費有効年に応じて、鳳凰会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いいたします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア 新規加入の皆さま及びOB会費未納のため2022年までに会員資格を喪失された皆さま

鳳凰会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長宛てメールにてご連絡ください。

## 【送付先】

郵便番号753-0841 住所 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内  
宛先 山口大学ワンダーフォーゲル部

イ 会費有効年が2023年の皆さま

会費納入について(お願い)、郵便局払込取扱票

口座記号番号 01530-0-16050

加入者 山口大学ワンダーフォーゲル部鳳凰会

個人会員年会費 2,000円(夫婦会員年会費 3,000円)

※年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振込金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を1,000円の端数で納入されないようお願いいたします。

新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱い致します。

## (2) OB通信の送付について

OB通信は本来会員の皆さまだけに送付することになっています。

## (3) OB通信・鳳凰会HPへの寄稿について

事務局では、皆さまからのOB通信の寄稿を常時受け付けています。掲載を希望される場合は、会長宛原稿を提出ください。なお、OB通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおり願います。鳳凰会HPは随時受付ます。なお、OB通信の内容等についてご意見がありましたら、会長までお寄せ下さい。

## (4) 転居先連絡のお願いについて

OBの皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB通信の送付が遅れる原因になっています。転勤等で住所を移転された場合、また連絡先(メールアドレス・電話番号)の変更があった場合は、速やかに会長までご連絡願います。

同期世話人の方には同期の方の住所変更の連絡をお願いしています。同期世話人の一部の方でメールが不通となっています。連絡先(メールアドレス等)の変更がありましたら同様に会長までご連絡ください。

## 10. 2023年本部・支部役員連絡先

### 【本部】

#### ・鳳翔会会長

田村 伊正（工・昭和53年卒）  
〒758-00525 山口県萩市土原63-3  
携帯 090-3177-3876（家電 0838-25-5775）  
E-mail tamurako@kyouwagrp.jp

#### ・鳳翔会副会長

三國 彰（工・昭和55年卒）  
田原 宏（工・昭和57年卒）

#### ・鳳翔会幹事

田中 秀平（農・昭和47年卒） 石川 忠（教育・昭和49年卒）  
古谷 眞之助（経済・昭和52年卒） 坂田 信一（理・昭和57年卒）  
浅野哲郎（工・昭和61年卒） 齊藤 昌彦（農・昭和60年卒） ※兼会計担当

#### ・鳳翔会事務局長

坂本 新（経済学部・4年生）  
連絡先〒753-0841 山口県山口市吉田1677-1 山口大学体育会内ワンダーフォーゲル部

#### ・会計監査

平野 展康（経済・昭和59年卒） 日野 耕二（経済・昭和58年卒）

### 【東京支部】

支部長 城戸 賢嗣（経済・昭和49年卒）  
副支部長 高田 哲生（工・昭和49年卒）  
事務局長 秋山 高弘（経済・昭和53年卒）

### 【関西支部本部】

支部長 池田 純（工・昭和51年卒）

### 【山口支部】

支部長 坂田 信一（理・昭和57年卒）  
支部幹事 平野 展康（経済・昭和59年卒）  
支部幹事 川地 翔子（農・平成26年卒）

### 【九州支部】

名誉支部長 永沼 嗣朗（経済・昭和39年卒）  
支部長 龍 純二（文理・昭和50年卒）  
事務局長 天野 雅紀（経済・昭和61年卒）

【編集後記】 2023年春からはマスクをはずした生活が戻ってきましたが、コロナの感染は続いているようです。このような中で各支部の活動や個人の活動が行われており、今回もたくさんの原稿を投稿していただきましてありがとうございました。同期会も3年ごとに実施されている会もあるように聞いております。同期会の原稿もこれからのOB通信に掲載してまいりますので、皆様からの原稿をお待ちしております。

編集長 田原 宏

